

早良区職員提言検討チーム班参加者

テーマ

早良ブランドプロジェクト ～もっと早良が好きになる！～

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	区政推進部	総務企画課	上枝 美海	331	
2		地域支援課	横山 有二	455	
3		地域振興課	青柳 俊一	435	
4	市民部	市民課	古賀 翔太	232	
5		保険年金課	諫山 加奈	273	
6	地域整備部	維持管理課	高橋 大悟	304	
7	事務局	総務企画課	中川 真智子	216	

テーマ

SAWARA BOWL ～日常的に人が行き交うまち早良～

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	市民部	納税課	尾辻 美穂	345	
2		市民税課	宮本 恵美	256	
3	地域整備部	地域整備課	大森 学	311	
4	福祉事務所	福祉・介護保険課	金子 雄一郎	383	
5	保健所	健康課	津田 葉子	643	
6	事務局	総務企画課	的野 直勝	215	

テーマ

誰でも楽しく簡単に参加できる福祉を ～世代・地域を越えた新たな交流と生きがいを求

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	市民部	市民税課	浅野 順子	251	
2		固定資産税課	青木 優	264	サブリーダー
3	地域整備部	生活環境課	居石 敢三雄	305	
4	福祉事務所	子育て支援課	上木戸 知会子	283	
5		保護課	中村 綾	294	リーダー
6	保健所	地域保健福祉課	中野 美穂	413	
7	事務局	総務企画課	濱口 純子	213	



早良ブランドプロジェクト

～もっと早良が好きになる！～

WE  SAWARA!

早良区職員提言チーム1班

プロジェクトメンバー：
古賀・横山・青柳・高橋・諫山・上枝・中川

• 現在、福岡市は九州のみならず、世界の中でも住みやすい都市と言われている。

• この福岡市の中でも、都心と自然を同時に感じられるという魅力(ブランド)を持つ早良区に、25年後更なる魅力を持たせ、市民が誇りと愛着を持てるまちとして発展させるため、提言を行う。

早良区は住みやすい

早良区民

魅力UP!

誇り・愛着





★提言内容★

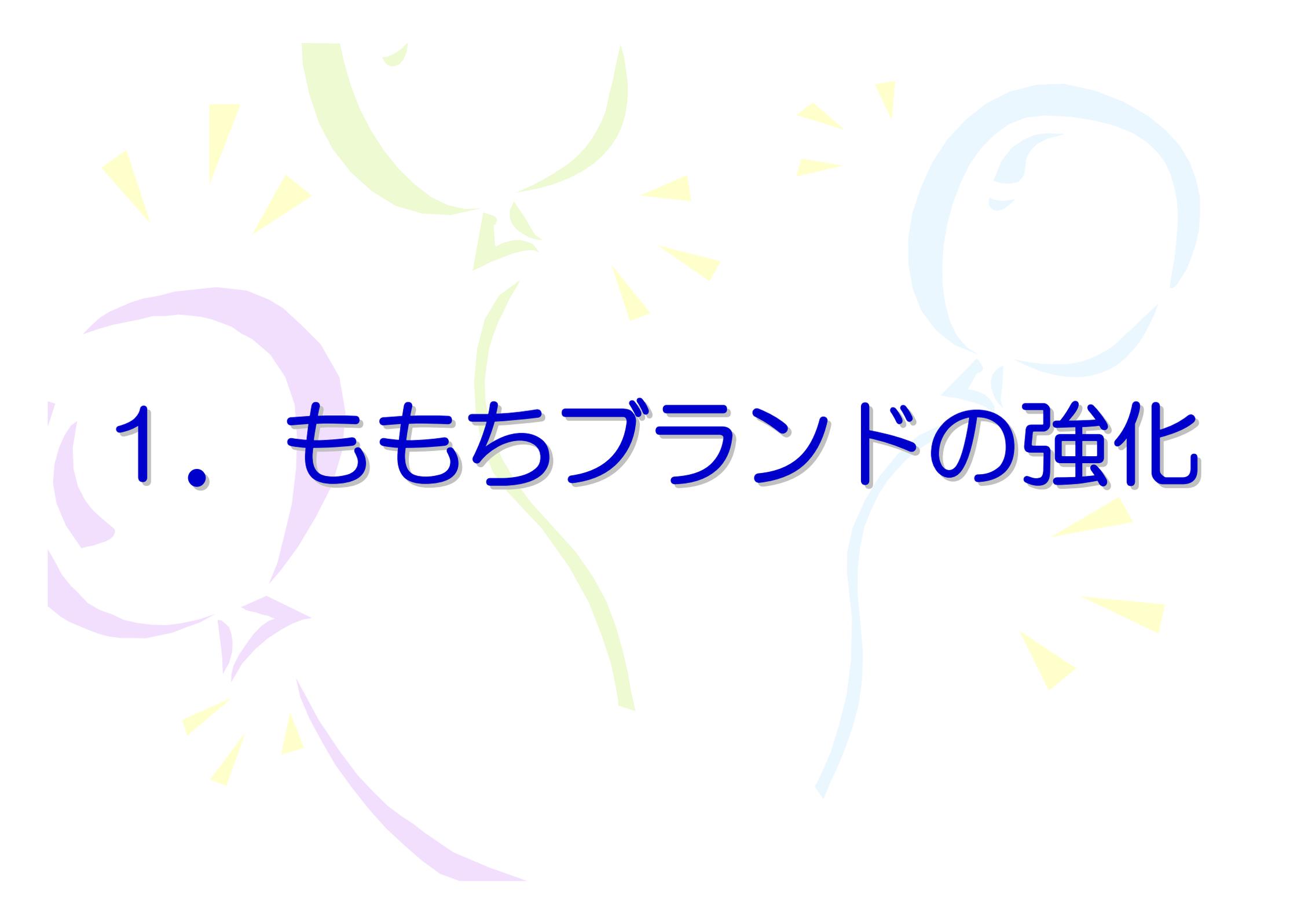
1. ももちブランドの強化

2. 文化拠点の整備と区役所移転

3. まち歩きの推進

4. 南部の自然の活用（大早良祭）





1. ももちブランドの強化

現状と課題

1. ももちブランドの強化

ももち地区の魅力

○オシャレな住宅街のイメージ

- ・高層マンション街
- ・整備された町並み etc

○レジャースポット

- ・ももち浜海水浴場
- ・福岡タワー・マリゾン etc

○オフィス街

- ・RKB TNC
- ・ソフトリサーチパーク etc

課題

○観光客に人気がない

○建物の老朽化

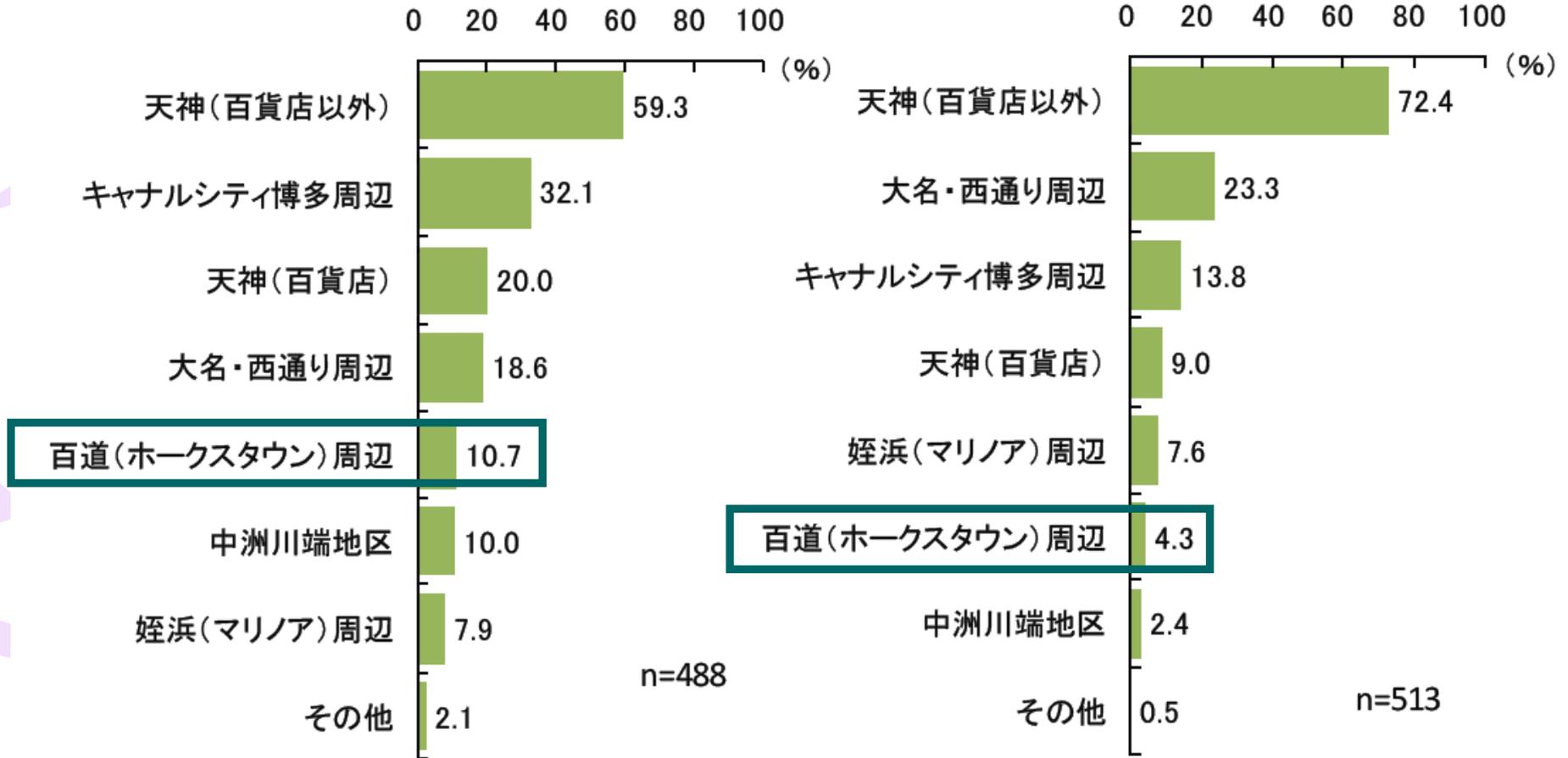
○既存のイメージへの飽き



(参考)福岡市を訪れた観光客が訪れた施設

<九州外>

<福岡県>



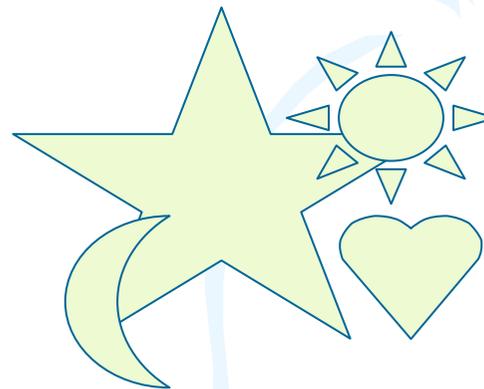
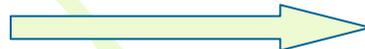
資料: 福岡市経済振興局集客交流部集客企画課「福岡市観光客動態調査報告書」2010年3月

注: 天神(百貨店) = 天神岩田屋、博多大丸、福岡三越、天神(百貨店以外) = 天神地下街、福岡パルコ、天神コア・ビブレ、ソラリアプラザ、イムズほか

▽知名度の割に人気はない？

提言

- ・ 25年後も変わらず早良区のシンボリックな街であり続ける“ももち浜”にするためには、現時点での魅力をさらに伸ばすとともに、新たな魅力を持たせることが必要。



1. 観光客に向けた魅力を！

2. まちに新しい価値を！

1. 観光客向けの魅力の展開

1. おしゃれなショッピングストリートの整備

- 福岡タワー、マリゾン以外にも訪れるきっかけを作る
- 観光客の滞在時間を増やす



2. ももち地区の使用・表示言語に

韓国語・英語・中国語を導入

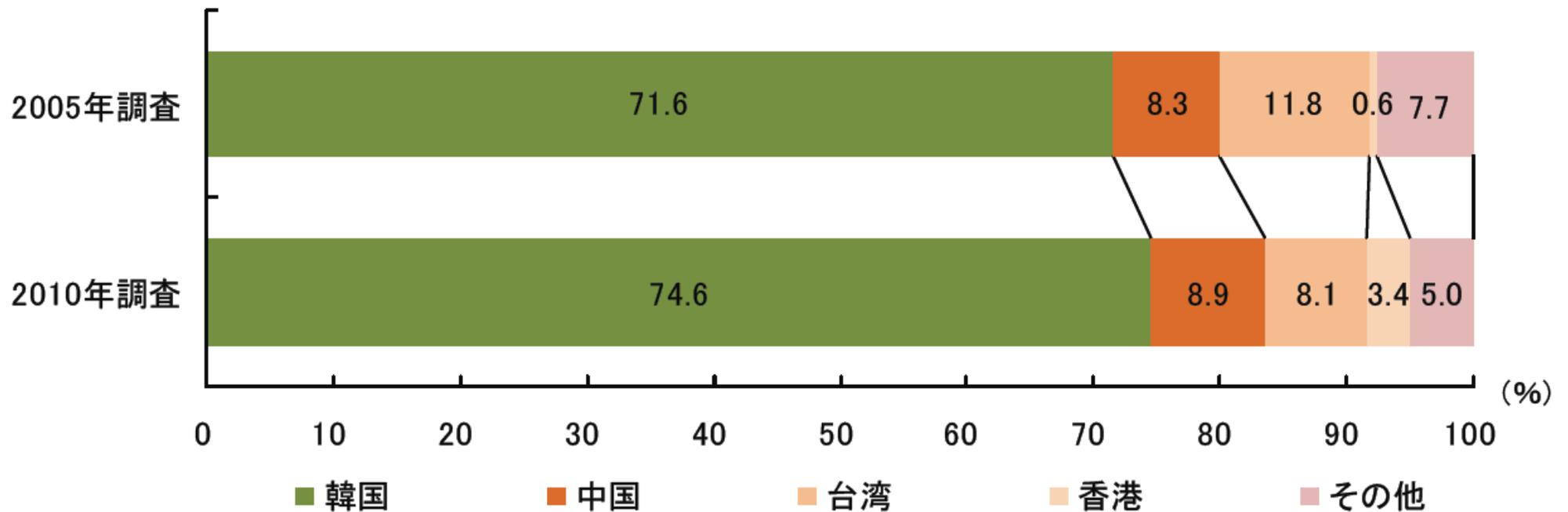
- 街中に知った言葉があることで
気軽に訪れることのできるまちに

잘 오셨어요!

Welcome!

欢迎光临!

(参考)福岡市を訪れた外国人観光客の居住国・地域



資料:福岡市「平成21年度福岡市観光客動態調査報告書」(2010年3月)

(注)調査票調査による(N=1,247)

福岡市「平成16年度福岡市観光客動態調査報告書」(2005年3月)

(注)調査票調査による(N=4,094)

▽来福する外国人観光客の7割超が韓国人
まずは韓国語から！

2. まちに新しい価値を加える

・ まちの緑化を推進する

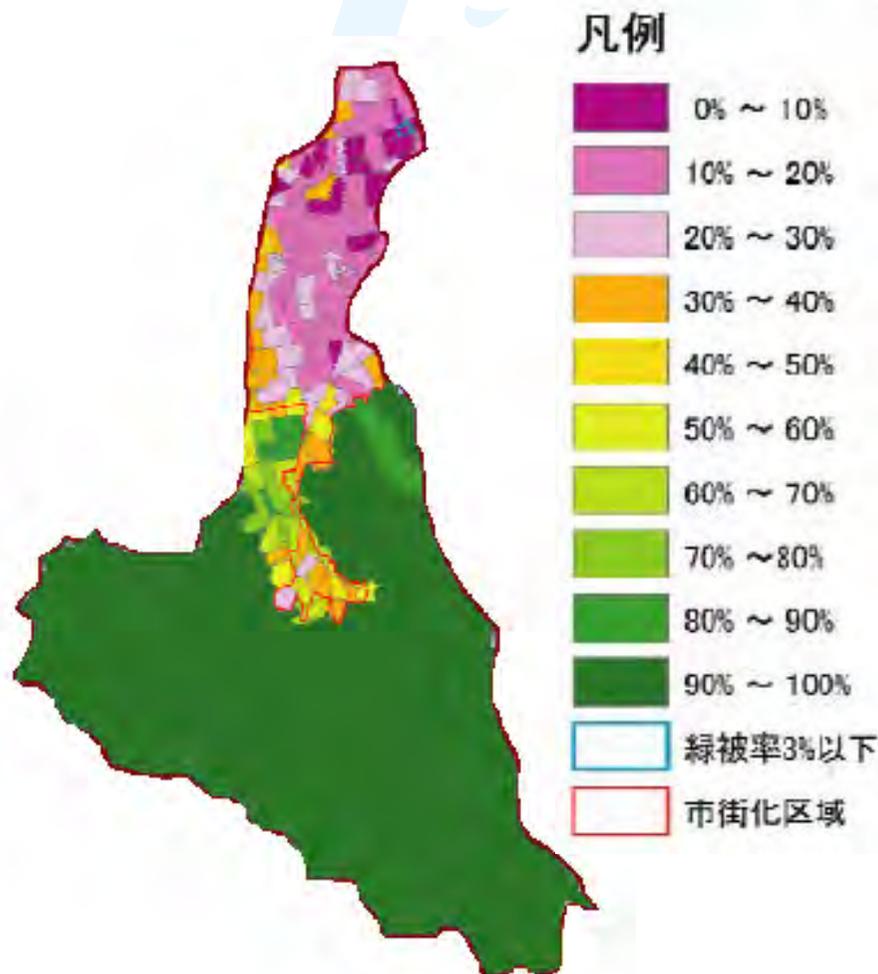
- 緑豊かな早良区でも、北部や中部の緑被率は低い
- 全市的に「身近な緑への満足度」は低い

(↓全市でのデータ)

36	身近な緑への満足度 (身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合)	24.1% (2007年)
----	---	------------------

- ・ 都市の中でも緑あふれる生活を味わえるモデル的地区に！

町丁目別の緑被率(H19)



※福岡市 新・緑の基本計画中の資料より

緑化で生まれる価値

- 緑が多く見えるようになり癒しの空間ができる
- ヒートアイランド現象緩和に役立つ
(壁に植栽パネルを貼れば壁の保湿力が向上)
- エコロジーな生活というステータス
- 街並観光で人が集まる

1. ももちブランドの強化



福岡市 朝顔による緑化

図書館, 公民館等から試験的に実施

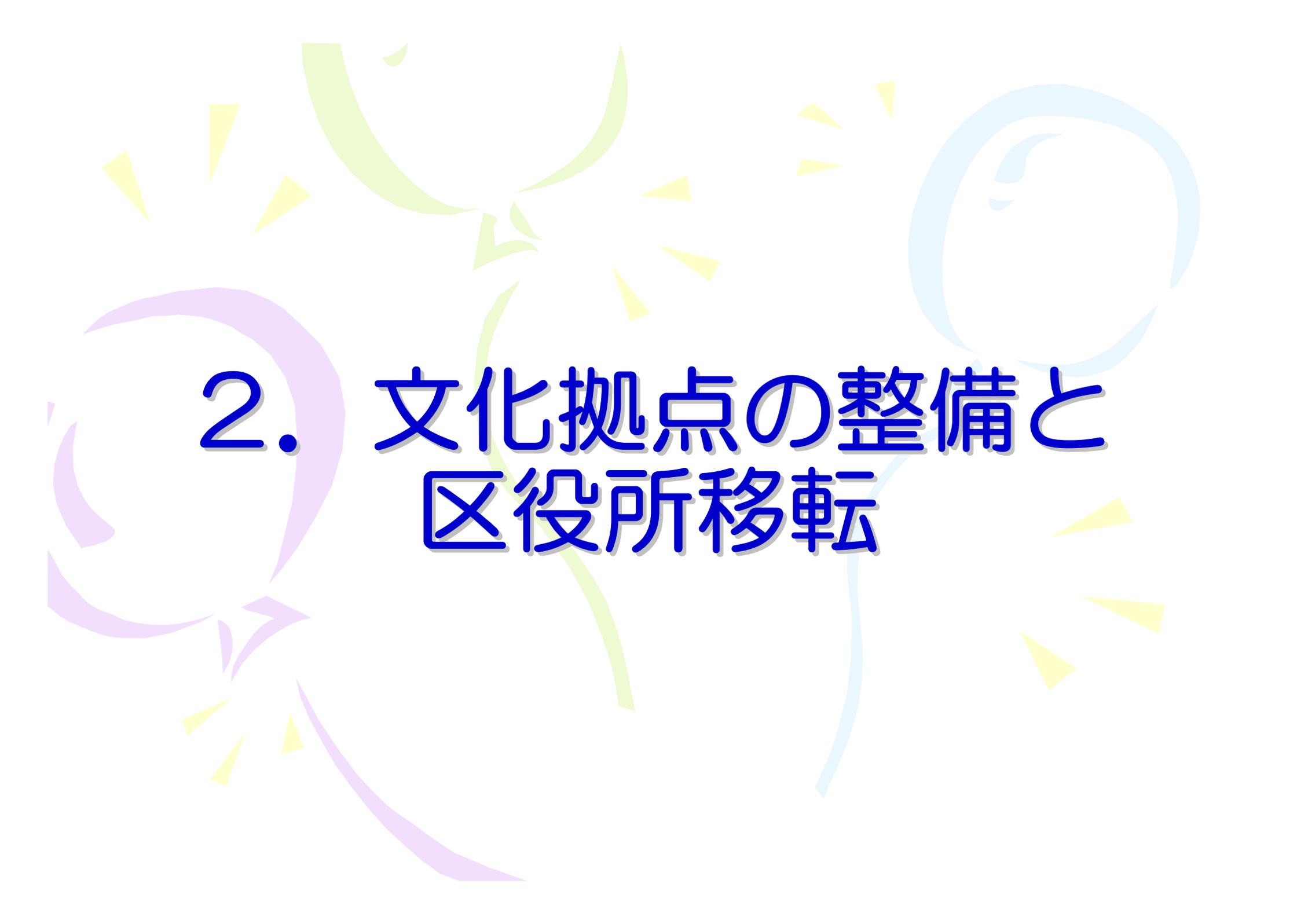


緑化助成事業の一環として緑枠地区で実施

壁面の緑化面積に応じた助成金を出す

効果

- 観光客の増加による**経済効果・にぎわい**創出
- 緑化による**快適でおしゃれな**生活の提供
- **25年後も変わらず早良区のシンボリックな街**であり続けることができる



2. 文化拠点の整備と 区役所移転

現状と課題

2. 文化拠点の整備と
区役所移転

区役所及び周辺の魅力

- ・地下鉄から徒歩1分
～利便性は7区でトップクラス！

- ・周囲に文化施設が集合
(博物館・美術館・図書館など)

課題

- ・区役所の老朽化
(25年後には築60年を超える)

- ・人口重心地に区役所がない

- ・世界35都市ランキングにおける、福岡市民の文化・芸術意識レベルはなんと最下位！

提言

2. 文化拠点の整備と
区役所移転

1. 早良区役所 & 周辺区域に、文化拠点複合施設を建設する。

2. 文化拠点の整備に伴い、早良区役所を人口重心地(中部)へ移転する。

25年後の早良区に市内外を問わず多くの人々が触れ合う居心地の良い空間にするために、早良区の文化集合地区に文化拠点施設を作る。

①区役所跡地に文化拠点を！

～カルチャー・プロジェクト～

2. 文化拠点の整備と
区役所移転

- 日本 & 世界の文化複合施設を建設
「サワラ・カルチャー・ミュージアム(SCM)」

- 土地の一体化

(区役所・百道パレス・市民センター・バスセンター・水道営業所等)

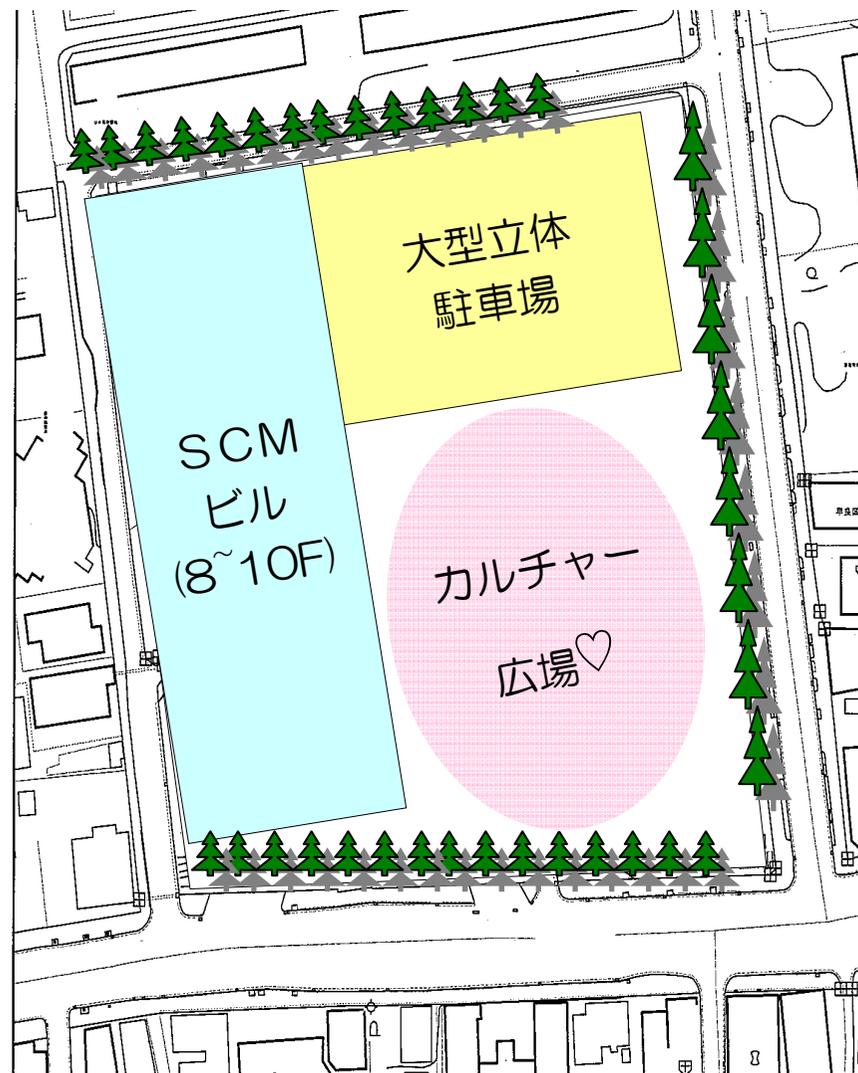
- 交通の拠点機能強化
- 西部副都心の核になる



現在の早良区役所周辺図



25年後の未来予想図Ⅱ

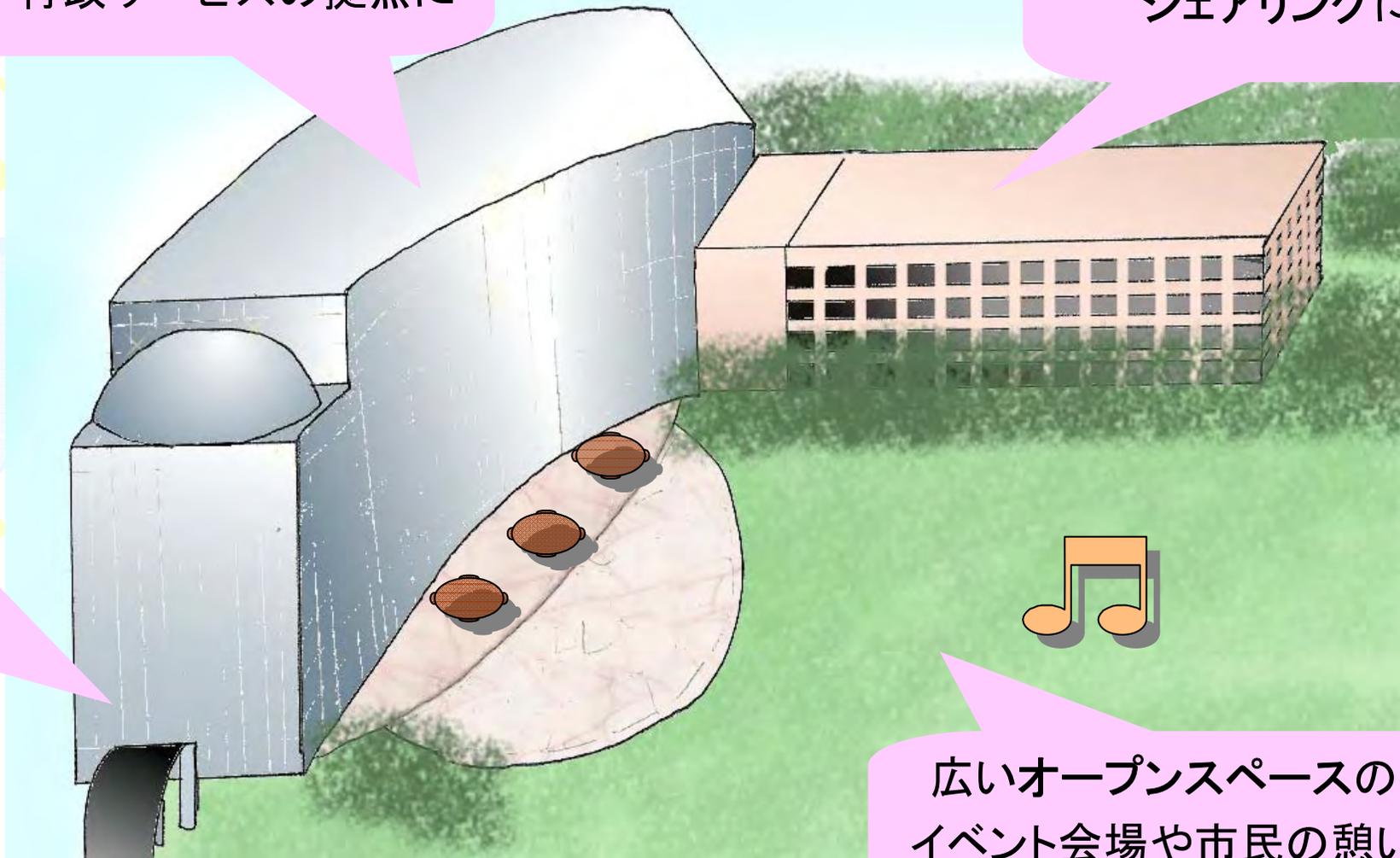


SCMビル

屋上や壁面緑化を活用
文化・行政サービスの拠点に

広い駐車場により、
パーク&ライドやカー
シェアリングに対応

バスセンターを
施設内に

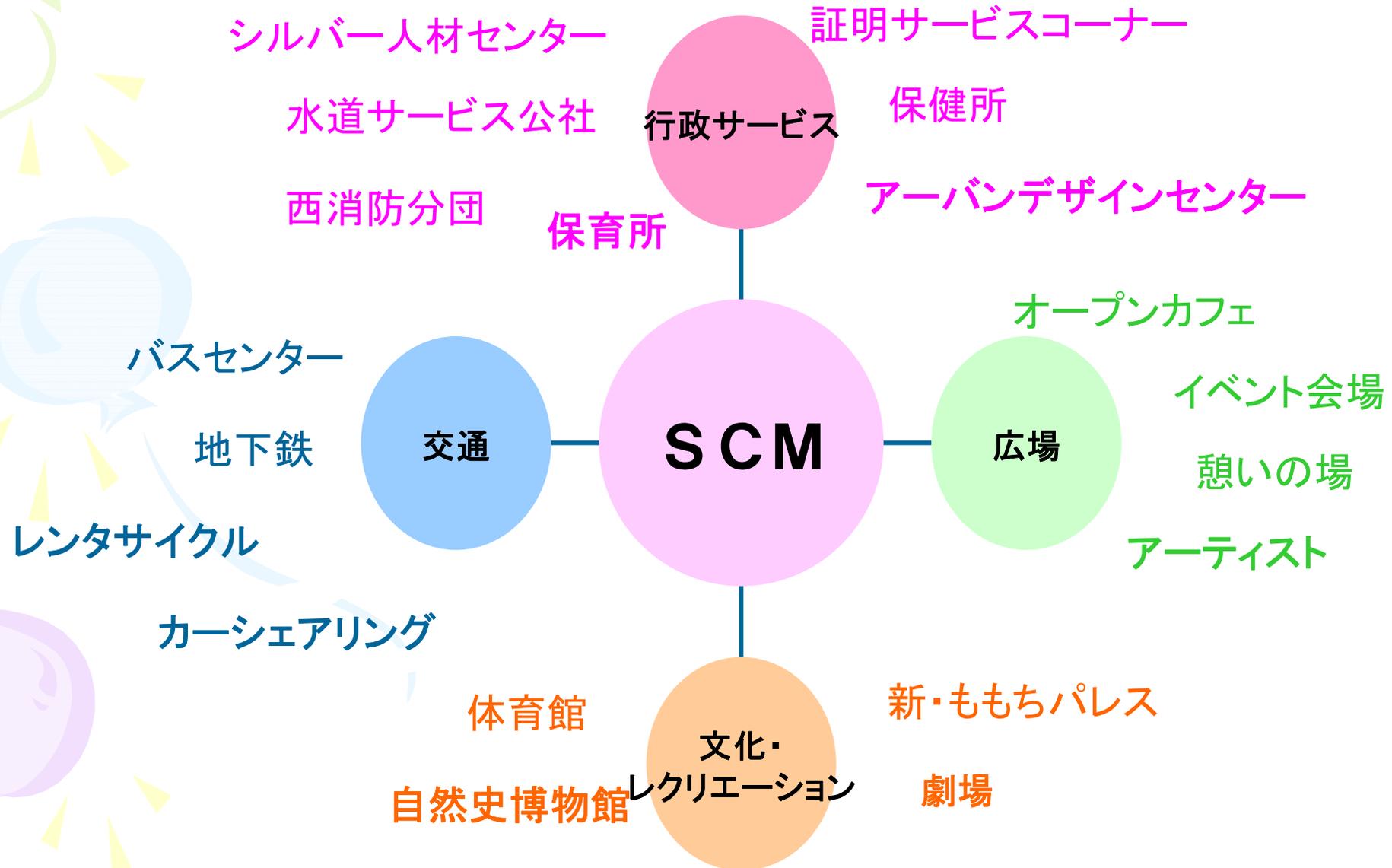


広いオープンスペースの確保
イベント会場や市民の憩いの場
として

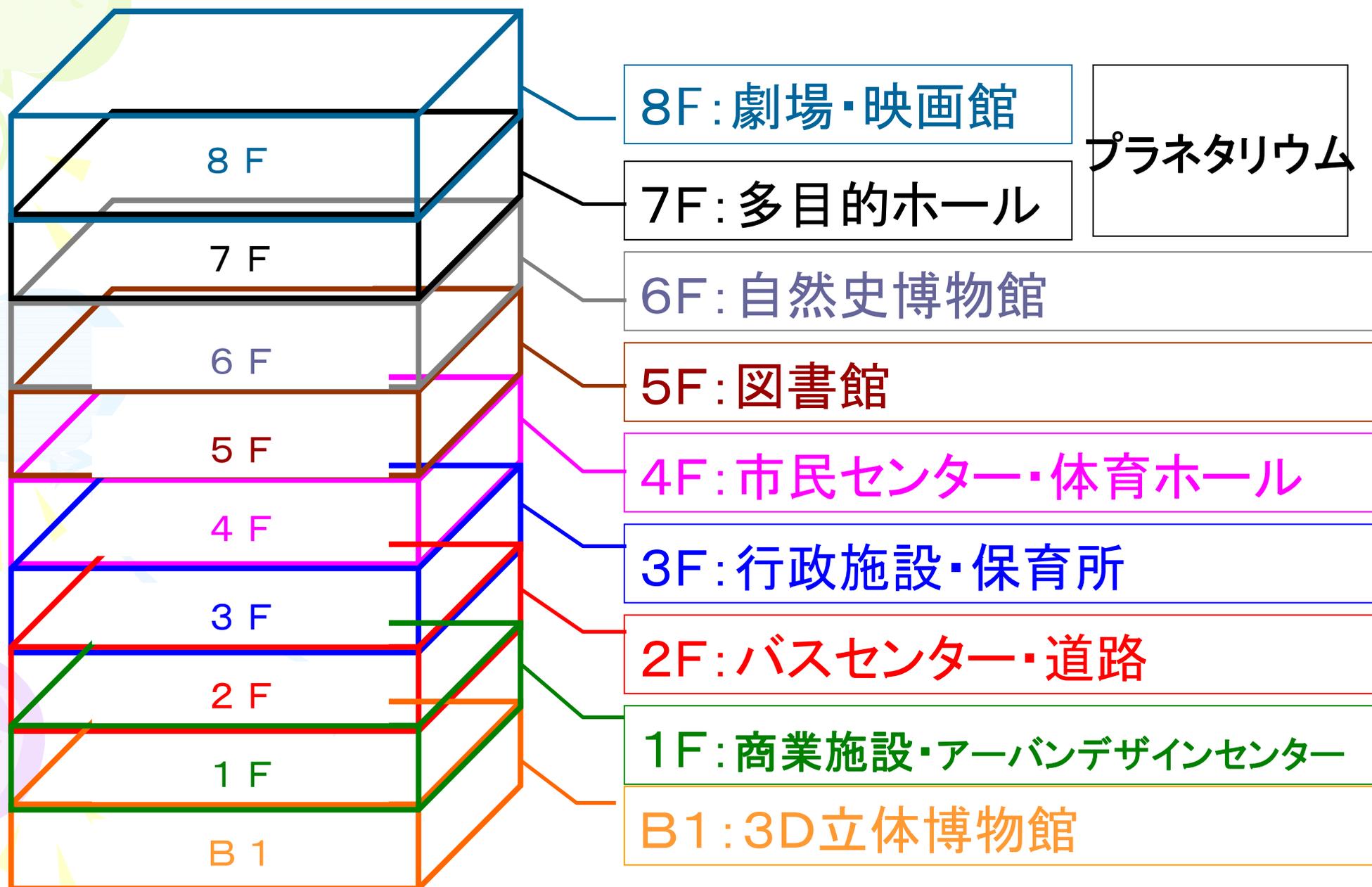


サワラ・カルチャー・ミュージアム SCMの構想

2. 文化拠点の整備と
区役所移転

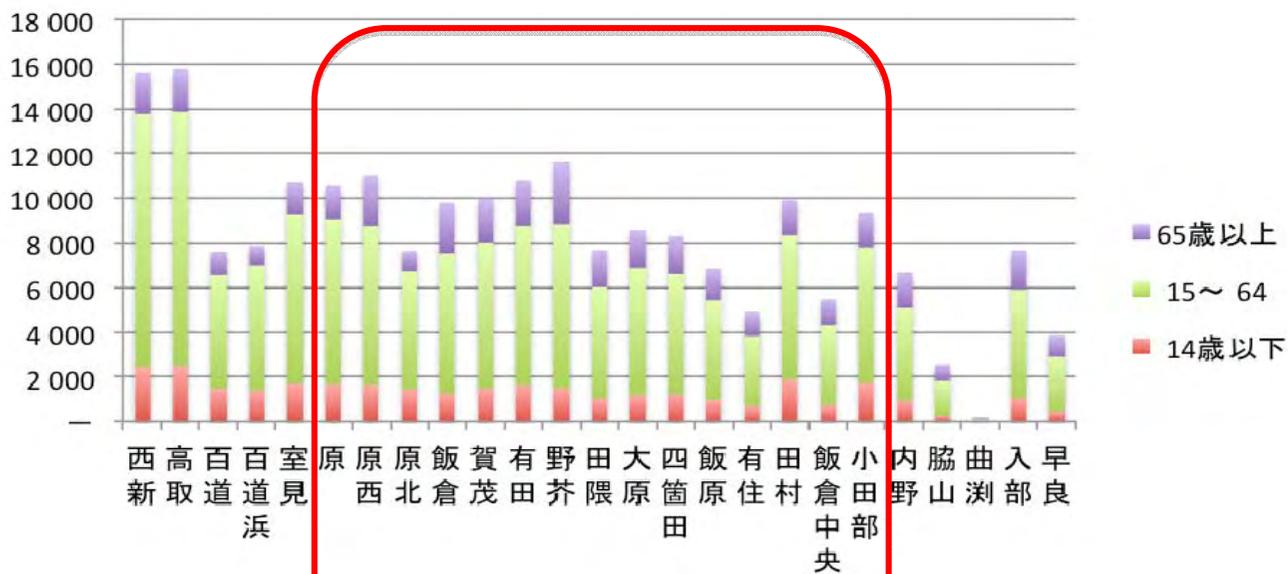


「SCMビル」の構想



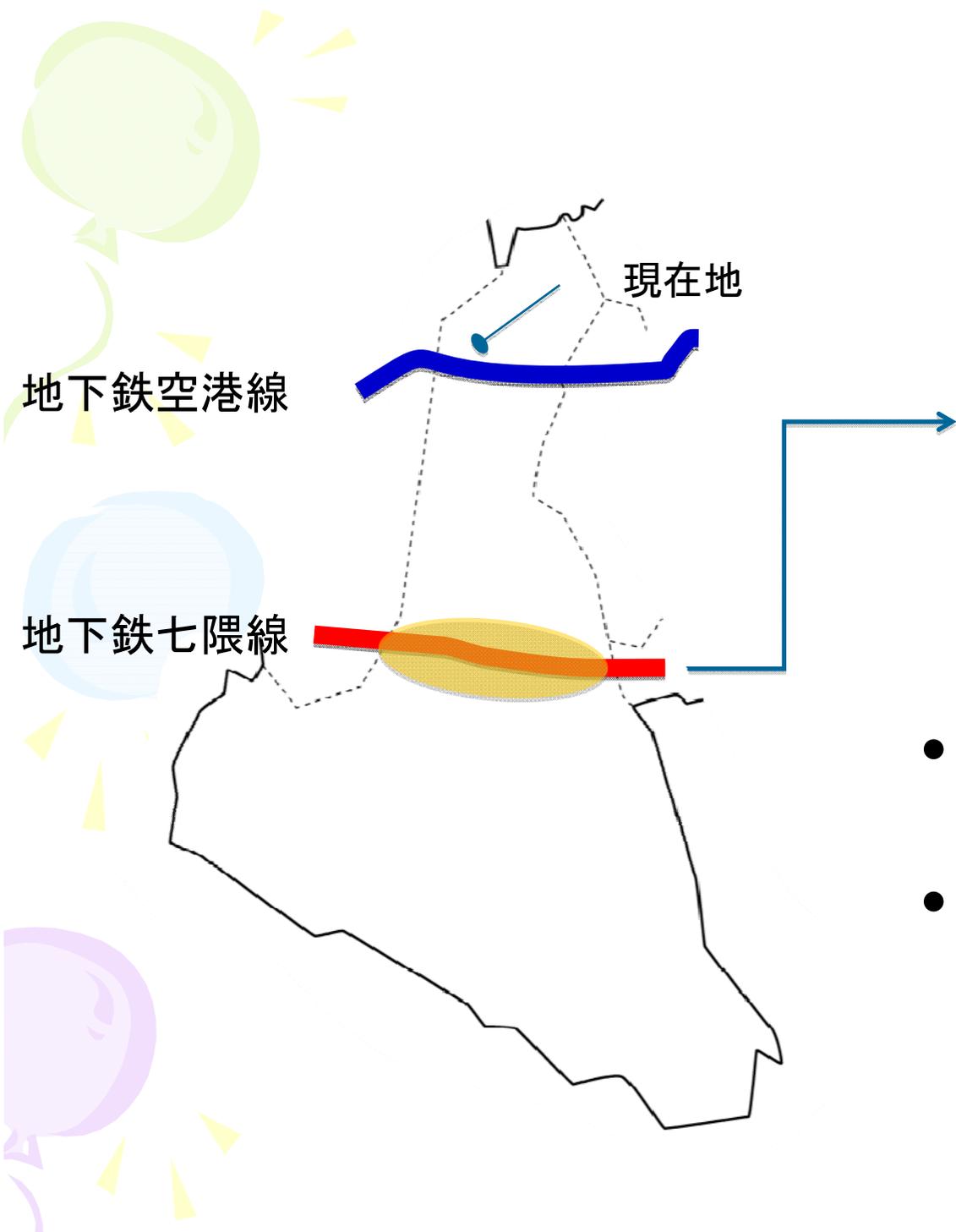
② 新区役所移転計画

早良区の人口分布

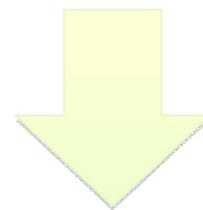


早良区中部





早良区中部に！
(野芥・賀茂・次郎丸
駅から徒歩5分以内)



- 住民により近い場所に(利用しやすい区役所)
- 七隈線の利用増

新区役所のビジョン ～人々の憩う、文化的な役所～

1. 区役所本庁舎前に広場を設ける

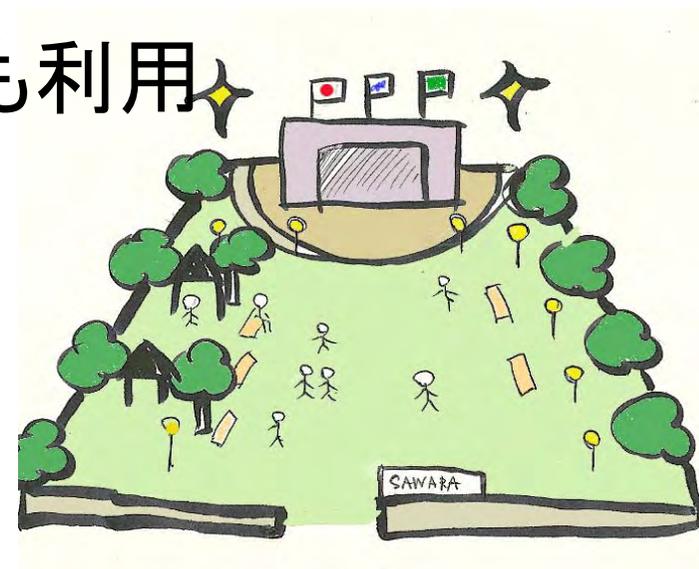
- － 憩いの場・イベント会場として使用

2. 地域交流センター機能も有する

- － コンサート会場・展示場等文化施設機能を拡張

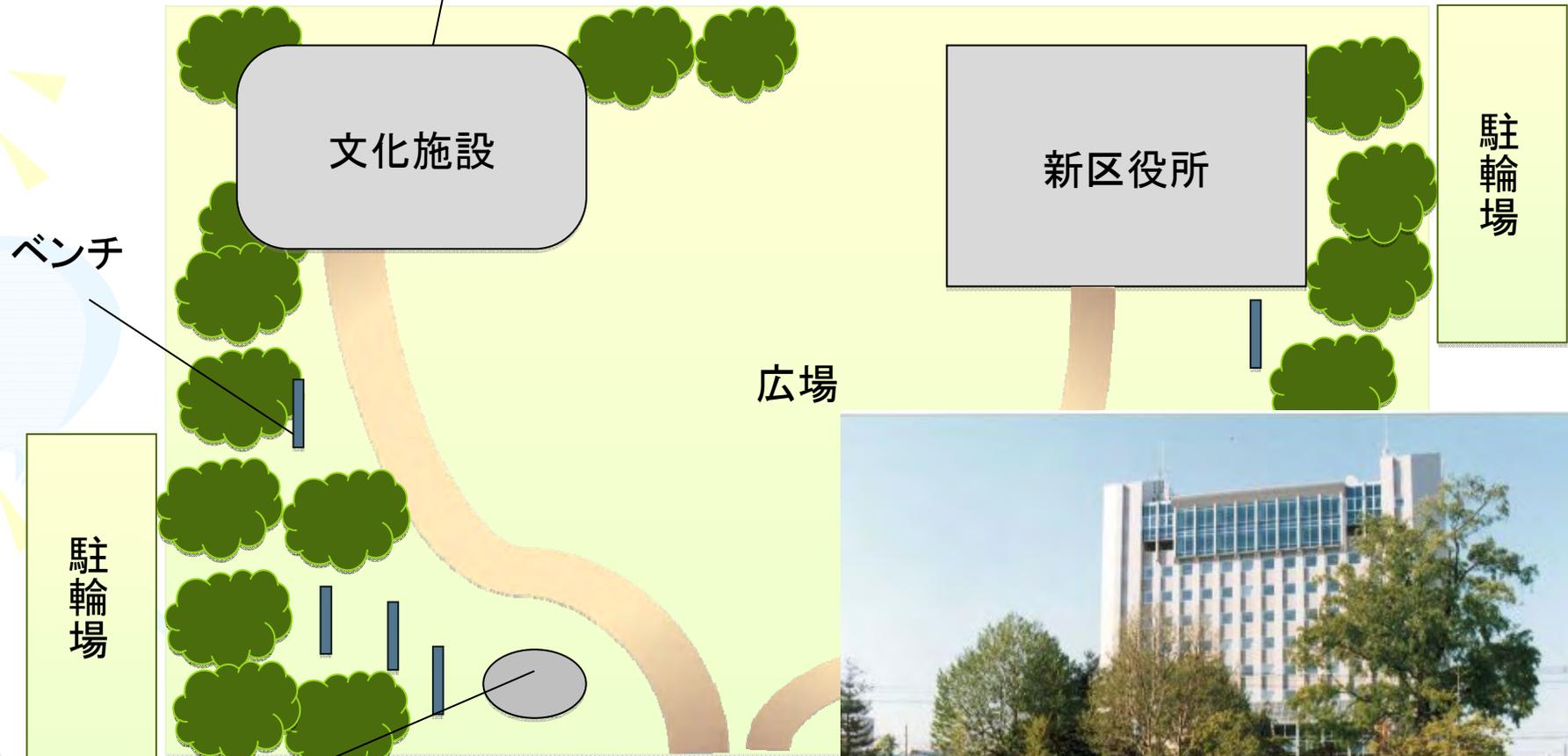
3. オープンカフェで若者やママ友も利用

4. 太陽光・風力発電などを取り入れたエコで笑顔な区役所



イメージ図

コンサートホールや
展示場など



カフェ

北海道滝川市役所庁舎(HPより)→



SCM建設と 区役所移転による効果

- SCMにより多様な文化の交流・幅広い人々の交流が生まれ、新しい発想・人脈の出会いの場に
- 早良区の知名度が増す・経済が活性化する
- 様々な機能が集約し、生活が便利になる
(文化・経済・交流・生活・レジャー・交通・まちづくりの拠点)

心の豊かさ

3. まち歩き推進



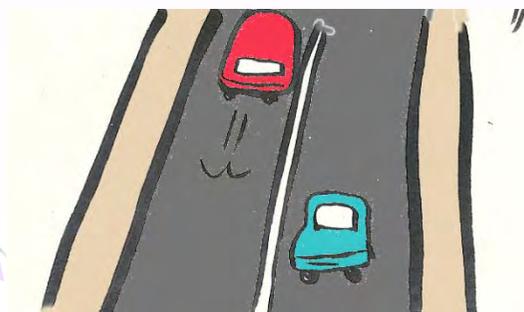
現状と課題

3. まち歩き
(コミュニティ推進)



早良区道路の魅力

- 大きな幹線道路
- 整備された歩道
- 商店街(歩いて楽しい歩行区間)



課題

- 生活道路の多くは自動車優先(暗い・寂しいイメージ)
- 歩行者が少ない
- バリアフリー化も進んでいない



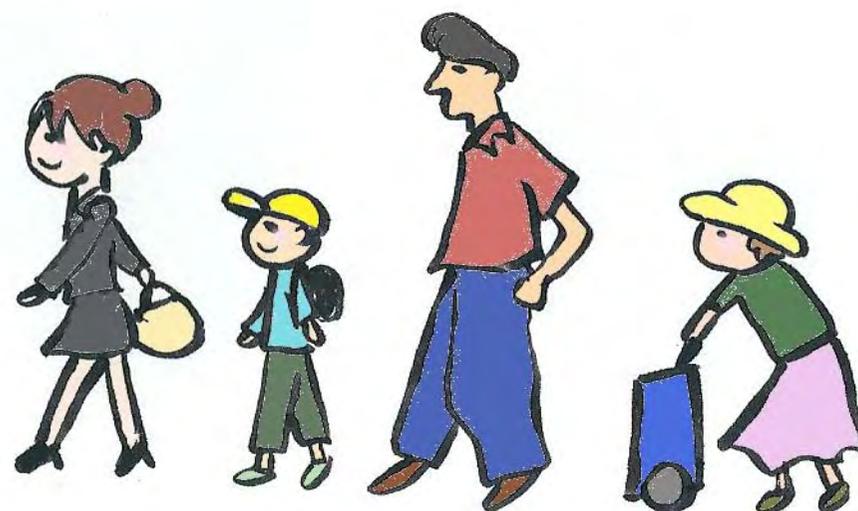
提言

3. まち歩き
(コミュニティ推進)



一. 積極的に「まち歩き」を行う

二. 交通網の整備





「まち歩き」の具体例

SOFT

- 他自治体を倣って、まち歩きイベント実施
 - 鹿児島ぶらりまち歩き
 - 長崎さるく博

☆1km～5km程度のコースをいくつか設け、年齢や目的、所要時間に応じて選択出来るようにする

HARD

- 街灯の設置
 - オシャレで暖かみのある街並
- 街路樹
 - 緑視率の向上
 - 夏は木陰が涼しい



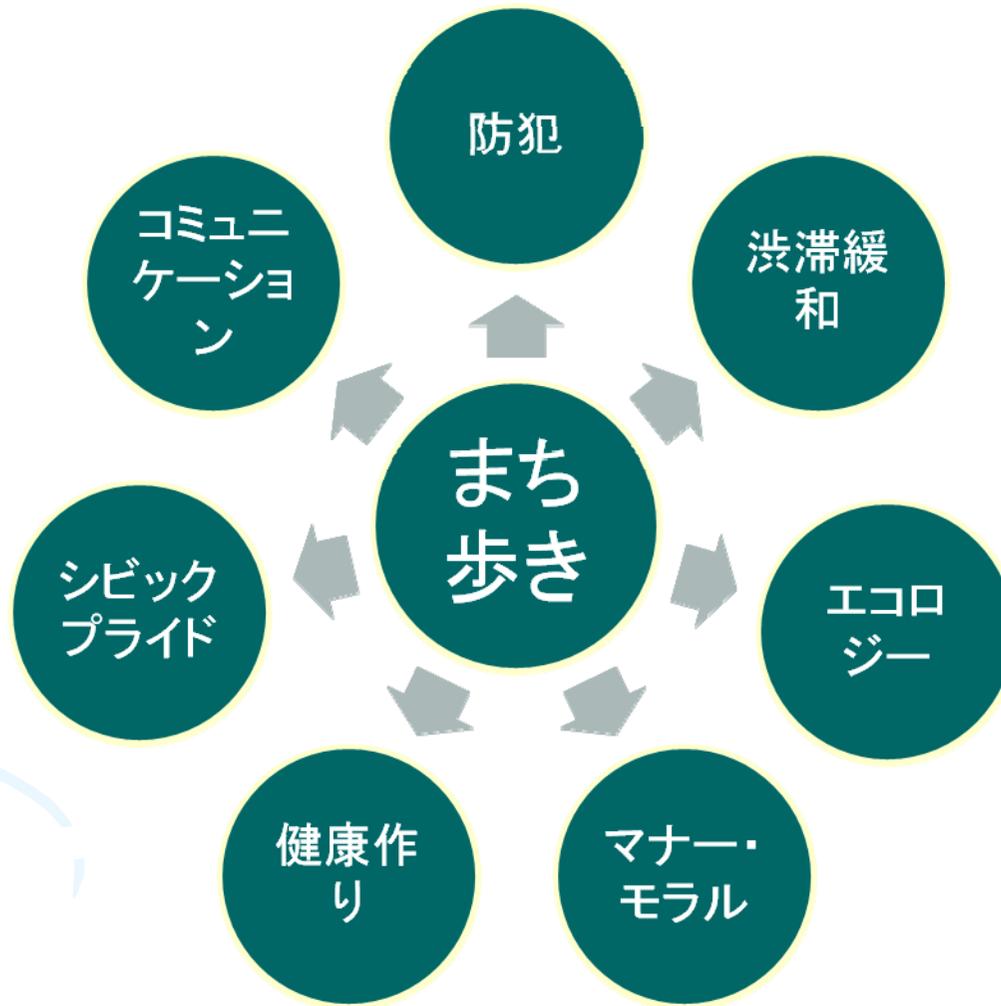


交通網の整備

- 早良区縦断線の開発
(ex.路面電車・バス・ベロタクシー・地下鉄・モノレール)
- 地域密着型ルート
地下鉄と、その周辺地域を結ぶ道路整備，地域循環型公共交通の導入，レンタサイクルの活用
- 歩道バリアフリー化の推進
生活道路を地元ワークショップ等で積極的に歩道整備・バリアフリー化を進める



具体的内容①まち歩きの効果

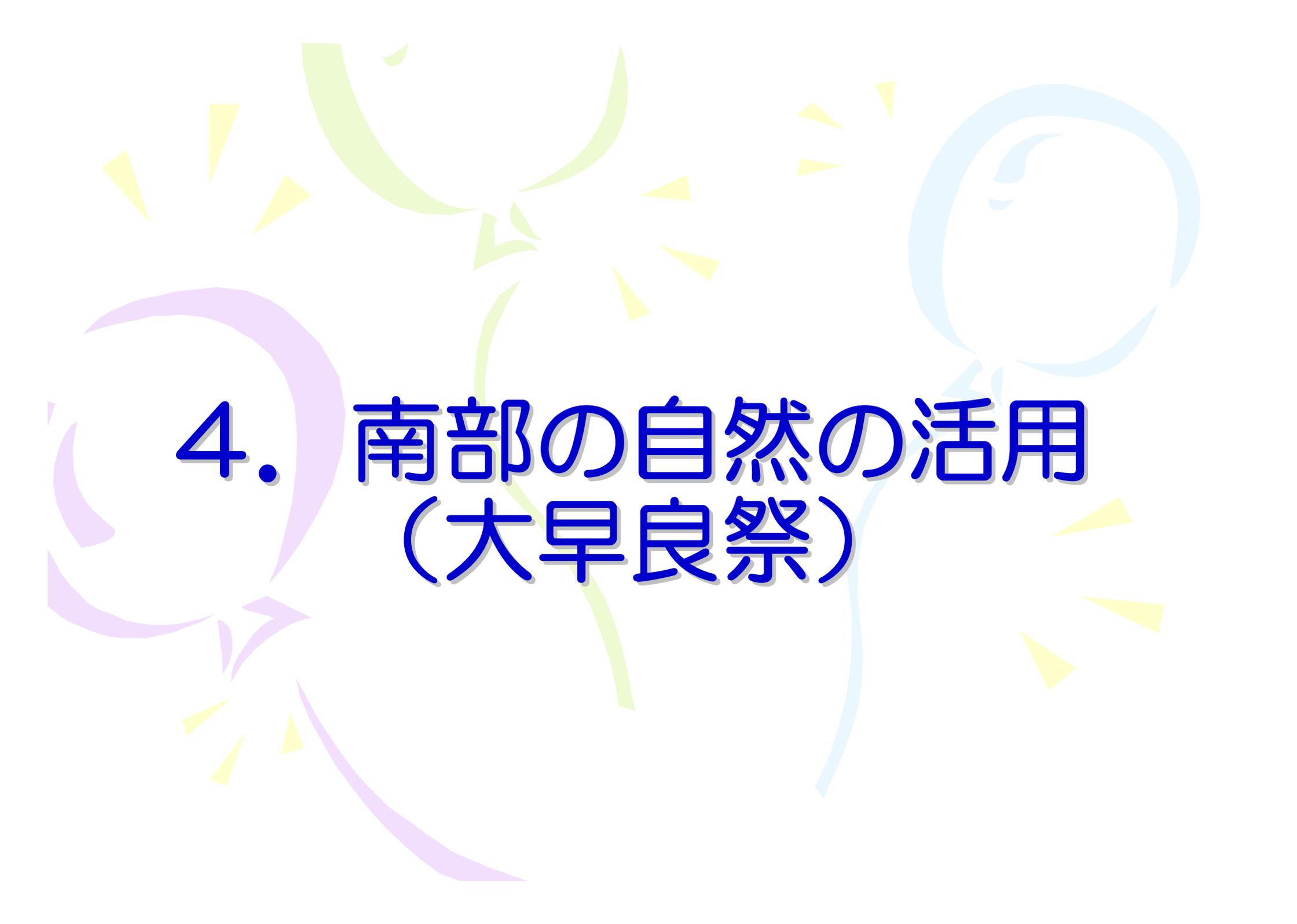




歩きたくなる街並

車移動から歩行へ

活気あふれるまち

The background features several large, stylized, overlapping shapes in light green, light blue, and light purple. These shapes resemble abstract leaves or petals. Interspersed among these are numerous small, yellow, triangular shapes pointing in various directions, creating a sunburst or starburst effect.

4. 南部の自然の活用 (大早良祭)

現状と課題

4. 南部の自然の活用
(大早良祭)

魅力

- 広大な土地
- 雄大な緑



市内で自然と触れ合える

課題

- 人口減少
- 少子高齢化の加速
- 交通の便が悪い



過疎化は進む一方

このままでは、早良区南部の魅力が伝わらない！

提言：早良南部

提言内容：

早良区全体で大きな祭りを開催する事を提言する。

大早良祭 (仮)

提言理由：

雄大な自然に溢れた早良区南部の魅力を知ってもらうため、早良区全体として大きな祭りを行い、南部の魅力を早良区内のみならず、日本国内、更には世界中へ伝えるもの。

早良区の“秋の魅力”いっぱいの情報誌

さわらの秋



— 彩 “食” 健 “美” の玉手箱 —

2011年9月~12月

イベントカレンダー付

自然

祭催し

味覚

特産

先着300名に賞品あり!!
スタンプラリー
対象店舗18店のスタンプを
3つ集めて賞品をもらおう!
2011年12月15日(休)まで
はしご屋製菓社

オススメ
店舗情報
18店!
特典付きが13店

企画: さわらの秋 企画運営委員会

～祭～

「大早良祭」全体の構想 Q&A

4. 南部の自然の活用 (大早良祭)

•when:いつ頃するの？

早良区南部の雄大な自然を十分に伝えられる秋
10月～11月の間に早良区内で様々なイベントを行う

•where:どこでするの？

会場は南部のみならず、早良区全体が会場となる

•who:誰がするの？

区だけでなく、地元町内や学生、民間会社など誰もが主役になる

•what:何をするの？

秋に相応しい芸術・食・スポーツ等のイベントを行う

“祭”の三本柱 “食”・“健”・“美”

まつり (さい)

しょく

けん

び

食

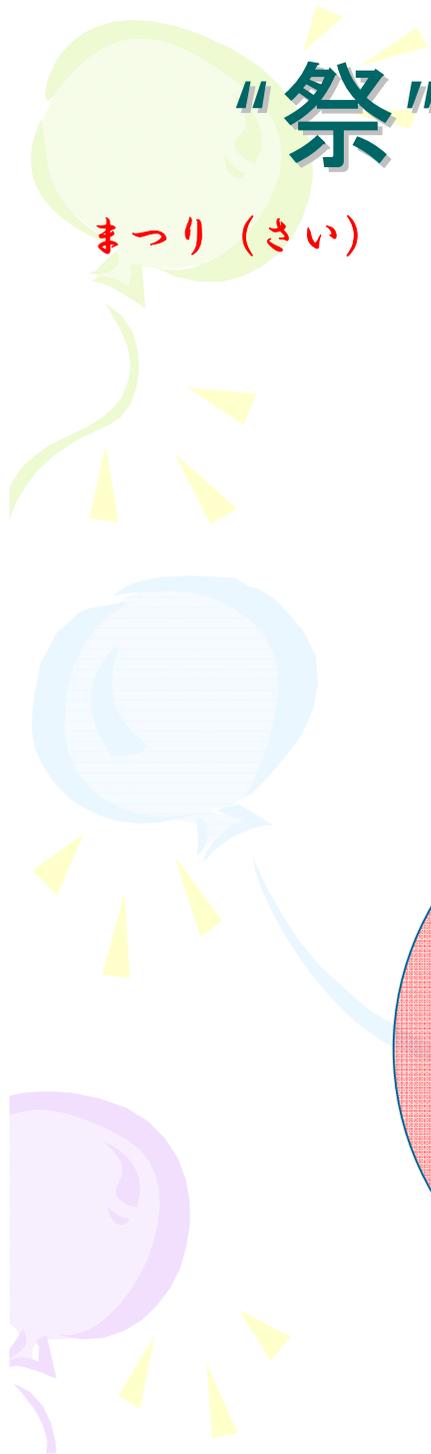
食のイベント

健

健康イベント

美

芸術イベント



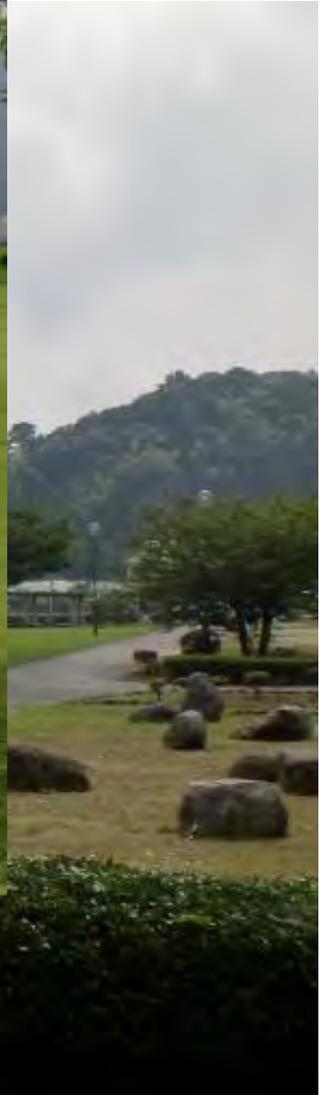
～食～

美味しい, 楽しい, 嬉しい♪食は心のオアシスです

4. 南部の自然の活用
(大早良祭)

食欲の秋, 早良区全体でグルメイベントを開催する。

- **大衆(B級)グルメの屋台販売**
(早良区で有名なお米・鳥料理・豆腐・パン・お茶など)
(市内のB級グルメの公募～早良区名物から福岡名物に)
- **会場は早良区内の広い公園等**
- **海外留学生の方々と共同で母国の郷土料理等の販売も行う。**



～健～

4. 南部の自然の活用
(大早良祭)

健やかな体が早良区を魅力溢れるまちにする

スポーツの秋、早良区全体を会場とした健康イベントを開催する。

- **自転車**で室見川の源流を辿って行く「**ツール・ド・サワラ**」
タワーから室見川を上流に向かい曲淵ダムがゴール。約18km
- 南部の雄大な自然と触れ合いながら**歩く**「**ウォーク・イン・サワラ**」
- 室見川で**カヌー**レース「**カヌー・イン・ムロミリバー**」



START!

GOAL

～美～

早良の美は自然だけではない。
ヒトの作りだす美を感じてください。

4. 南部の自然の活用
(大早良祭)

芸術の秋、早良区全体で芸術イベントを開催する。(メインイベント)

・**野外音楽ライブ**@背振少年自然の家

著名なアーティスト(出来れば福岡出身)を招く

・**彫刻・絵画等の美術ギャラリー**

・**屋内あるいは屋外でミニ映画祭**

・**大学生や一般参加募集。優秀賞なども決める**

・**「Mr. & Ms. Sawara」を開催する(ミスター&ミスコンテスト)**



背振少年自
然の家

～祭りのあとに～

祭りにおける影響と期待できる効果

4. 南部の自然の活用
(大早良祭)

食

食文化の交流により、隠れた早良名産品の再発見 & 新たに早良ブランドが誕生する…etc

健

健康イベントにより、早良区の人々が長寿・健康体になり、益々元気な早良区に生まれ変わる…etc

美

芸術イベントにより、音楽・美術に秀でた人材が芽を出す。また早良区南部の「美」を感じた芸術家達が集いだし、南部にミニ芸術村等の集落が出来る。…etc

・祭りにより，早良区南部の魅力に気付いて，
定住者が増える・観光客が増える・知名度が上がる等
の効果が出る

・祭りにより，日本(世界)各地から大勢の人が集まり，
経済・交流など様々な面で早良区の活気が増す。

・「祭りを行う」という行為そのものにより，
地元が活気付いて，元気な早良区になる。

提言：その他

提言内容

PR・広報活動に力を入れる。

提言理由

福岡市や早良区役所は多種多彩なイベント行っているが、知名度が低いものも多く見受けられるため、PR・広報活動に力を入れ、市内イベントを市民の皆様にも身近なものとする。

具体的内容

つぶやけ！サワラちゃん。

早良区長名義で、最低1日1回以上つぶやいて頂く。イベント紹介だけではフォロー？されなさそうなので、何かしらのメリットも検討すべき。

コンクルージョン

早良区は既に、海や山など豊かな自然があり、交通網が整い、都心に近い、といった住みやすい環境を備えている。

そこに今回の提言で挙げたような、「ももちブランド」「文化・芸術の拠点」「まちあるき」「大早良祭」といった、今までの魅力の強化や新しい魅力の開発によって、**魅力溢れる充実した生活**や**そのイメージ(ブランド)**を世界に発信できる早良区になれると考えている。

住みやすい環境



心の豊かさ



世界に知られたまち

「早良が好きであり誇りである」市民が生まれる

(当事者意識の醸成や市民参加の高まりが期待される)

<早良区職員提言：1班>

「早良ブランドプロジェクト～もっと早良が好きになる！～」

【提言理由】

福岡市は既に、コンパクトに生活環境の整った住みやすいまちとして、国内外から高く評価されている。また早良区には、福岡市のイメージとして浮かぶももち地区や、広大で自然豊かな南部地域、それらに挟まれた定住者向けの地域など、都心と自然を感じられる定住者の多いまちという特徴がある。一方で、南部の過疎化や定住者の高齢化、公共施設の老朽化など課題も多い。そのような地域特性を持つ早良区について、良い点は維持・強化させ、課題は解決し、さらには新しい価値観を加えていくことで、25年後により住みやすく魅力的なまちにしようと考え提言を行う。

また、様々な特徴や魅力を持つ早良区を国内外に発信できる早良ブランドと打ち出していくことで、多くの市民が「好きだ」「自分のまちだ」と言えるような、誇りと愛着を持てるまちになることを期待している。

【提言内容】

提言内容としては、次の4つである。

- (1. ももちブランドの強化
- (2. 文化拠点の整備と区役所移転
- (3. まち歩き
- (4. 南部の自然の活用（大早良祭）

どれも早良区の地域特性を活かしつつ、新しい魅力を加えることを目指して提言するものである。

1. ももちブランドの強化

○現状と課題

早良区北部のももち地区（よかトピア通り以北）には次のような特徴がある。

- ・高層マンションや閑静な住宅街、歩道・車道・街路樹など整備された町並みなどから生まれる、オシャレな住宅街のイメージ。
- ・シーサイドももち海浜公園や福岡タワー、マリゾン、Yahoo!JAPAN ドームなどが集まったレジャースポット。
- ・ソフトリサーチパークのような情報産業が集積した最先端のオフィス街。

このような特徴をイメージとして含むオシャレなももちブランドというものが存在しており、それが早良区や福岡市のシンボルの一つとなっていると感じているため、このももちブランドのイメージを25年後も確保したいと考えている。

しかしその課題として、

- ・市内の他の観光地よりも人気がないこと
 - ・25年後には建物が老朽化してしまうこと
 - ・よかトピア以来変わらないまちのイメージに対する飽きが生まれること
 - ・従来の地区のイメージや見た目が時間の経過とともに薄れることで新しい開発地域との競争に負けてしまうこと
- などが考えられる。

○提言

25年後も変わらず福岡市のシンボルのな地区でありつづける“ももち浜”（ももちブランド）にするために、現時点の魅力を伸ばしつつ、地区に新しい魅力を持たせることが必要である。そこで以下の2つを提案する。

提案1（観光客向けの魅力の展開）

福岡タワー周辺に商業施設が少ないため、タワー近くやホークスタウンとの間にオシャレなショッピングストリートを整備し、ももちブランドのイメージ強化と観光客の回遊性の向上と滞在時間の延長を狙う。またももち地区の使用・表示言語に英語・韓国語・中国語を積極的に導入することで、海外観光客に買い物だけでなく宿泊してもらえる地区にする。

提言2（街に新しい価値観を加える）

地区の建物（図書館など公共施設から始める）に壁面緑化を積極的に利用するなど、緑被率を一つの指標として、市民の身近な緑に対する満足度が高いまちにする。それによりヒートアイランド現象緩和など環境に配慮したまちになり、快適でエコロジーな生活というステータスを取り入れ、また見た目に美しいオシャレな街並を確保することができる。

○効果

以上の提言による効果を再度まとめると、国内外の観光客の増加による経済効果とにぎわいの創出。緑化による快適でオシャレな生活と空間の提供。となる。

これら新しい価値観を加えることで、ももち地区は福岡市のシンボルのな地区であり続けることができると考えている。

2. 文化拠点の整備と区役所移転

○現状と課題

早良区役所やその周辺の特徴として、次のものが考えられる。

- ・地下鉄藤崎駅や大きなバスセンターが存在し、特に地下鉄から徒歩1分の区役所の利便性は7区でもトップクラス。
- ・福岡市博物館や総合図書館などの文化施設が存在。
- ・福岡市都市計画における西部副都心地域として、早良区役所を始め、保健所や体育館、市民センター、ももちパレスなどの公共施設が藤崎駅北側の一画に集積している。

このような特徴のもと、次のような課題が挙がってくる。

- ・区役所及び周辺の公共施設の老朽化。
- ・人口重心で考えると早良区役所の位置が北側に偏っている。
- ・西部副都心の核となる施設や地域が存在しない。
- ・福岡市民の文化・芸術にかかる費用は他の政令市と比べて低く、またアーティストなどの活躍の場も少ないといったように、福岡市は文化・芸術面の評価が高くない。

○提言

以上の現状と課題を踏まえて、福岡市都市計画も考慮に入れた、早良区民の利便性向上を目指した公共施設の在りようを提言する。また生活環境が整った福岡市において今以上に生活満足度を向上させるためには、今まで弱いとされた文化・芸術面の充実が必要だと考えられるため、新しい文化拠点の建設を提言する。

提言1（早良区役所及び周辺区域に福岡市の文化拠点となる複合施設を建設）

各種公共施設の老朽化に合わせて、藤崎駅北側地区の土地の一体化と再開発を行う。そこには、地域から世界まで幅広い文化芸術に触れられる新しい文化複合施設（「サワラ・カルチャー・ミュージアム（SCM）」）を設置し、従来の公共施設や新しい機能を備えた、様々な地域・世代・仕事の人々が出会い交流できる場、また様々な機能が集約した福岡市の西部副都心の拠点が生まれることを考えている。

SCMの備える機能として、次の4つがある。

文化・芸術・レクリエーション…体育館、ももちパレス、劇場、映画館、自然史博物館、世界の美術館・博物館の導入が体験できる3D立体博物館など。従来の施設に加えて、演劇など今後強化したい分野や、自然史博物館や3D

立体博物館など今までにない分野を新しく取り入れることを考えている。

行政サービス…保健所、出張所 or 証明サービスコーナー、水道サービス公社、シルバー人材センター、保育所、アーバンデザインセンターなど。これも従来の施設を残しつつ、区役所機能は縮小させる。区民に限らず利便性が高いという特性を活かし、保育所やアーバンデザインセンターといった新しい施設を入れ、多様な世代が触れ合える環境をつくり、今後のまちづくりの拠点としても活用する。

交通…地下鉄藤崎駅、バスセンター、レンタサイクル、カーシェアリング、駐車場など。生活者にとってはパークアンドライドも含めた地下鉄、バス、自動車の乗り換え・交通拠点として。また観光客にとっては、レンタサイクルやカーシェアリングなどにより、周辺観光の拠点として利用してもらう。

広場（オープンスペース）…イベント会場、緑地、オープンカフェなど。藤崎駅周辺にイベントで使えるオープンスペースを確保することで、市民の憩いの場となるだけでなく、各種イベントの舞台として、またストリートパフォーマンスなどアーティストの発表の場として使うことができ、訪れた人々が多様な文化に触れる場となる。

また、具体的なイメージとして「SCM ビル」構想を考えている。これは機能別に複数棟を建設するのではなく、各種施設を1棟のビルにまとめたものであり、バスセンターを建物内に取り込み、上層階に文化施設、低層階に行政施設を入れ、屋上駐車場の観点から8F～10Fまでのビル1棟として提案している。

提言2（早良区役所を早良区中部へ移転）

区役所は他の公共施設と比べより区民に特化した行政サービス施設であるため、早良区民の人口重心に近く利便性の確保ができる七隈線の駅（野芥・賀茂・次郎丸）周辺に移転させ、利用しやすい区役所を目指す。

現在の早良区の人口を、区役所がある北部（百道、百道浜、室見、高取、西新）と中部（小田部、原、田隈、原西、原北、飯倉、賀茂、有田、野芥、大原、四箇田、飯原、有住、田村、飯倉中央）と南部（早良、内野、脇山、入部、曲淵）のような学校区別に分けて比較すると、中部が6割強の人口を抱えており、早良区の人口重心が現在の区役所の位置より南に下ることが分かる。また地理的にも早良区役所が北側に寄っている。利便性確保という観点から地下鉄沿線である七隈線沿いを候補地として考えている。

移転後の新しい区役所の機能として、広場やカフェなどのオープンスペースや地域交流センターによる、人々の出会い、文化、交流の場となることを考えている。

○効果

以上の提言の効果として、文化芸術を発表する場が区内に増え、新しい文化を享受し体験する一大拠点生まれることで、文化的水準の高いまち福岡という新しい価値観を発信する根拠地になることができ、早良区の知名度をあげ、経済の活性化につなげられる。また多種多様な文化や人々が交流できる場となることで、新しい発想や刺激が生まれ、クリエイティブなまちを目指す下地になり得る。これらはももちブランドの強化においても有用である。さらに、様々な機能（文化・行政サービス・交流・レジャー・交通・観光・まちづくりなど）や施設が集約・整理された福岡市の西部副都心の拠点となることで、生活者や観光客にとって、分かり易く便利な、活気に溢れたまちになることができる。

3. まち歩き

以下では、早良区の中でも人口の多い中部地区を想定して、まち歩きの提言を行う。まち歩きを提言する理由としては、まち歩きが現在から未来の地域の様々な問題を解決できる手段であること、また早良区中部を特色のない普通の住宅地でなく世界に発信できる早良ブランドの一つとして提案できるような地域とすること、の2つが挙げられる。

○現状と課題

まち歩きに関する現状として、以下のようなものがある。

- ・大きな幹線道路が整備されており、そこには幅広い歩道もある。（国道263号や県道558号）
- ・他と比較して活気のある、歩いて楽しい商店街がある。
- ・都市高速や福岡外環状道路もあり、自動車での移動に便利である。
- ・住民にファミリー層や中高年が多い。

道路だけでなくバス路線も充実し便利なまちであるが、課題として次のようなものがある。

- ・自動車優先のまちであり、生活道路が安全であるとは言えない。
- ・バリアフリーで安全な歩きやすい空間が少ないため歩行者が見えない。
- ・団地やマンションが多く、高齢化や地域コミュニティの衰退が心配される。

○提言

以上の現状と課題を踏まえ、「まち歩き」を早良区中部の特色として打ち出すこと、また区役所移転とも絡んで交通網の整備を行うこと、の2つの提言を行う。

提言1（まちあるきの推進）

地域住民が積極的にまちを歩くように、また多くの市民がまちを歩く姿が見ら

れるように、ソフト・ハード両面から支援を行う。ソフト面としては、従来のようにまち歩きマップやウォーキングマップを作るだけでなく、様々なまち歩きイベント（鹿児島ぶらりまち歩き、長崎さるく博、JR九州秋のウォーキング）を参考に実施したり、自治会など地域自治組織に「防災マップ」や「地域要支援者マップ」などの作成を任せるなど、より市民に積極的に関わる施策が考えられる。またハード面として、街灯設置によるオシャレで安全な街並や、街路樹による心地よい空間、自動車の立ち入り制限や歩道設置による安全安心な歩行者空間といった、歩きやすく、歩きたくなる環境の整備が考えられる。

提言2（交通網の整備）

まち歩きに係る交通網整備として、地域密着型ルートの整備がある。地下鉄とその周辺地域を結ぶ歩行者空間の整備や地域循環型公共交通の導入、レンタサイクルの活用や自転車道の設置など、自家用車以外の交通手段の利用を促すことを考えている。また、住宅地内の生活道路を、地元ワークショップなど地域主体によって歩道整備やバリアフリー化を進める。

○効果

まち歩きには様々な効果が考えられる。例えば、福岡市では今後のまちづくりにおいて、犯罪の少なくないことやマナー・モラルが悪いことが不安要素として上位に挙げられているが、まち歩きが浸透し人通りが増えることにより、防犯の効果が期待でき、また人の目があることで、マナー・モラルの向上にも考えられる。さらに自動車の利用が減ることにより、渋滞緩和や環境負荷の軽減につながる。さらに高齢化時代に対処するために、健康作りや交通事故の減少にもなる。人が家から歩いて出ることにより出会いが増え地域コミュニティの衰退にも効果が期待できる。歩行者視点でまちを歩くことにより、地域の小さな魅力の発見につながり、地元愛の醸成にもなる。

このように歩きたくなる街並を形成することで、車移動から歩行への転換を促し、活気あふれるまちにすることができると考えている。

4. 南部の自然の活用（大早良祭）

○現状と課題

早良区南部の現状として、福岡市内に広大な土地と雄大な緑があり、気軽に自然と触れ合えるという魅力がある。しかし課題として、早良区でも比較的早く進んでいる人口減少や高齢化などがあり、また交通の便が悪いため過疎化を加速させている。

○提言（大早良祭）

以上のような現状と課題から、現在ある早良区南部の魅力が伝わっていないと考え、早良区南部の魅力を伝え、かつ活気あふれる地区にするために、早良区南部を中心とした区全体での大きな祭り（「大早良祭」）を開催することを提言する。

祭りの概要としては、

- ・早良区南部の雄大な自然を十分に伝えられる秋10月～11月の期間に早良区内で様々なイベントを行う。
- ・早良区南部のみならず、早良区全体が会場となる。
- ・地元町内や学生、民間会社など誰もが主役になる。
- ・秋にふさわしい芸術・食・スポーツ等のイベントを行う。

であり、「祭」の三本柱として「食」「健」「美」を考えている。

提言1（食）

食欲の秋。早良区全体でグルメイベントを開催する。

- ・大衆（B級）グルメの屋台販売（米、鶏料理、豆腐、パン、お茶など）
市内のB級グルメを公募する
- ・会場は早良区内の広い公園等
- ・海外留学生と共同で母国の郷土料理の販売も行う

提言2（健）

スポーツの秋。早良区全体を会場とした健康イベントを開催する。

- ・自転車で室見川の源流を辿っていく「ツールドサワラ」
福岡タワーから曲淵ダムまで約18km
- ・南部の雄大な自然と触れ合いながら歩く「ウォークインサワラ」
- ・室見川でカヌーレース「カヌーインムロミリバー」

提言3（美）

芸術の秋。早良区全体で芸術イベントを開催する。（メインイベント）

- ・野外音楽ライブ@背振少年自然の家
著名なアーティスト（出来れば福岡出身）を招く
- ・彫刻・絵画等の美術ギャラリー
- ・屋内や屋外でミニ映画祭
- ・大学生や一般参加募集。優秀賞なども決める
- ・「Mr.&Mrs.Sawara」を開催する（ミスター&ミスコンテスト）

○効果

それぞれ「食」「健」「美」を柱とした「祭」により、早良区南部の魅力を国内外の人々伝えることができ、それにより、定住者の増加や観光客による経済効果、知名度が上がる、新しい文化が生まれる、などの効果が期待できる。

5. その他：PR・広報活動に力を入れる

福岡市や早良区では既に多彩なイベントや多様な施策を行っているが、それらの知名度が低いものも多く見受けられるため、PR・広報活動に力を入れ、市内イベントをより市民の皆様に身近なものとする必要があることを加えておく。

コンクルージョン

早良区は既に、海や山など豊かな自然が身近にあり、交通網が整い、都心に近い、など住みやすい環境を備えている。そこに今回の提言で挙げたような、「ももちブランド」「文化・芸術の拠点」「まち歩き」「大早良祭」といった、今までの魅力の強化や新しい魅力の開発によって、現在から未来までに考えられる様々な課題の解決を図りながら、魅力溢れる充実した生活やそのイメージ（ブランド）を世界に発信できる早良区になれると考えている。

住みやすい環境を整え、心の豊かさを充足させることで、住みたいまち、市民満足度の高いまち、好きなまちになると考える。そこでさらに世界に知られたまちにすることで、「早良が好きであり誇りである」といった、一歩進んだ感覚（当事者意識や参加性、主体性の含まれた感覚）を持った市民を生み出すことができる。そのような市民は今後のまちづくりにおいて欠かせない財産であり重要なファクター・アクターになり得る。そのような市民が多く生まれる早良区になることを願って、以上の提言を行う。

SAWARA BOWL

～日常的に人が行き交うまち早良～

平成23年8月

早良区職員提言チーム 第2班

【Sawarabowl隊員】大森、尾辻、金子、津田、宮本、的野

はじめに（今、私たちが考えていること！）

- 今日、我が福岡市が140万人を越える人口規模、アジア・世界を代表するまちへと成長し、住みやすいまちとしても高い評価を受けている。これらは、福岡がこれまでチャレンジし続けてきた結果である。
- このチャレンジの原動力は「人」。今後、人と環境と都市が調和の取れたアジアのリーダー都市として、25年後の福岡市が様々なチャレンジを繰り広げる舞台となっているためには、「人」を創造し続けることが必要不可欠な取り組みである。
- そこで、福岡市の将来に欠かせない「人」を、早良区の全てに秘められたパワーを活かし、育成、集積させることを意識した取り組みを進めていく。
- そして、ここ早良区での取り組みが、福岡市のチャレンジを継続させ、福岡市の発展を支えるものとなることを目指し、提言をまとめる。

私たちからの提言！！

交流

SAWARA ALL MEETS

人が人に魅力を感じ早良区全体で人が行き交うまちへ

交流

出会う

繋がる

広がる

交流が生み出すもの



- 早良区に集う人々が交流をつくり、交流が人をつくる。
- そして早良区全体であらゆる人々の交流活動が、福岡市の人材を創出する。

SAWARA BOWL ~日常的に人が行き交うまち早良~

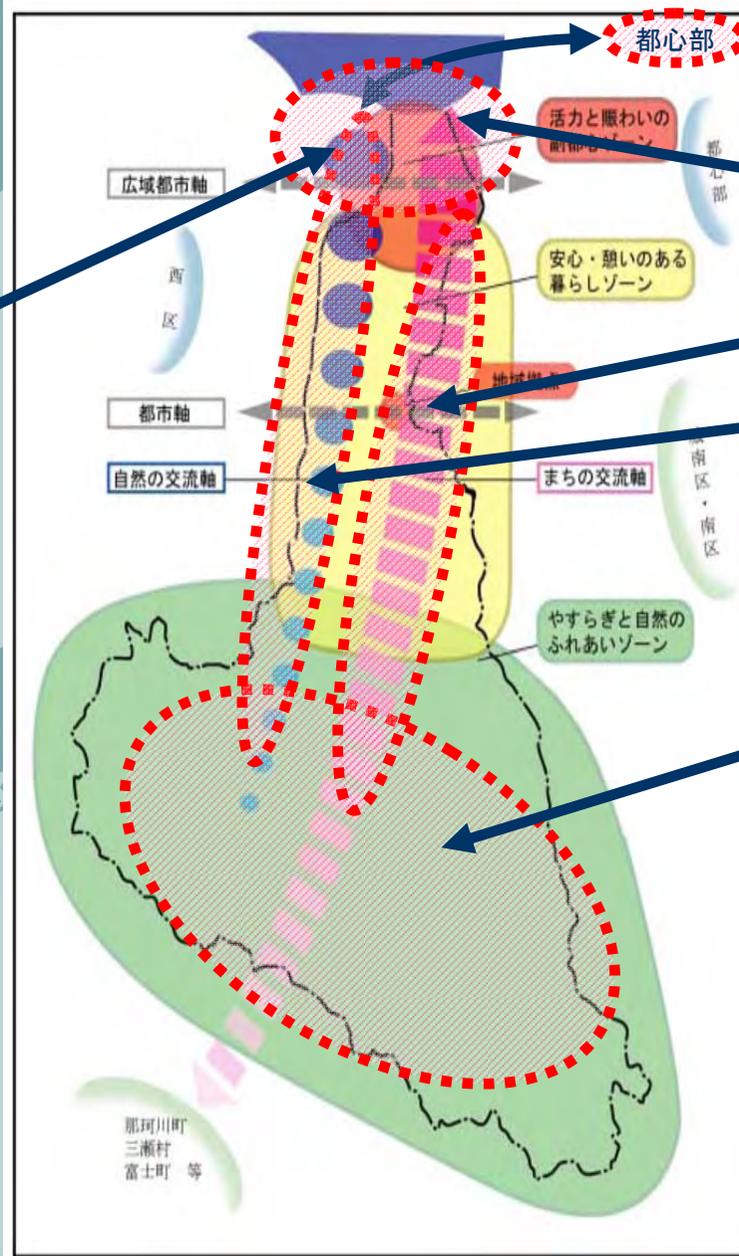
こんなことが出来たら...

【都市計画】

- 北部地区サステナブル・シティ構想
(持続可能な都市)
 - ・西新～Sももち地区
 - 入車規制(課金制度)の導入
 - 郊外へ駐車場の整備
 - 歩行者天国WEEKの導入
 - 公共交通料金無料WEEKの導入
 - 関連イベントと同時開催(車道を活用)
 - レンタサイクル、公共交通等、整備
 - 車道を、緑化、自転車道、歩行車道へ
- 新アジアのゲートウェイ構想
 - ・第2のアジアの玄関口整備
 - ・ホークスタウン地区の早良区編入
 - ・ベイサイド地区との連動や百道浜・地行浜地区中心に海上交通ターミナルの設置

【ソフト展開】

- 学生の活動エリアを早良全土へ
 - ・学生企画によるSawaraBowl促進事業
 - ・世代間交流の促進
- 連携を促進する倶楽部づくり
 - ・親戚倶楽部
 - ・お茶米倶楽部...etc,
- 早良出身者著名人大集合
 - ・各著名人らとともに考えるSAMプラン策定
 - ・各著名人の個人的取り組み促進
- 外国人おもてなし市民の育成
 - ・外国(語学文化)講座(英・中・韓)
 - ・英語のまち
 - ・日本文化(書道、華道等)習得
 - ・卒業生は、観光案内・日本文化伝導ボランティア活動の義務化
 - ・アジアこども交流事業
- 情報発信、共有事業
 - ・Facebookによる情報発信・共有
 - ・スマートフォンアプリ開発、Wifi整備



【交通インフラ】

- 西新～シーサイドももちの回遊性
- 南北横断交通整備
 - ・モノレール、路面電車、地下鉄等
 - ・Sももち～西新
 - ・～城南線～六本松
 - ・Sももち～西新
 - ・～263号線～野芥～南部地区
- ・263号エコレーン
- ・路面電車、ペロタクシー、自転車道
- ・ロープウェイ
- ・タワー～背振山
- ・水上バス(室見川)
- ・都心部～百道浜～南部地区

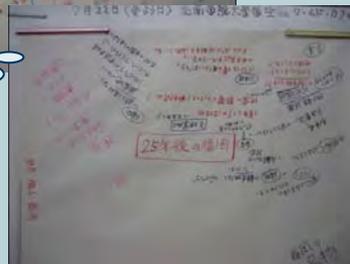
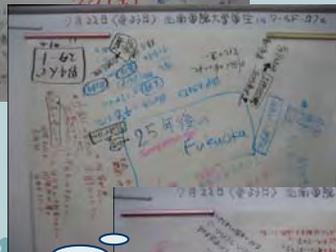
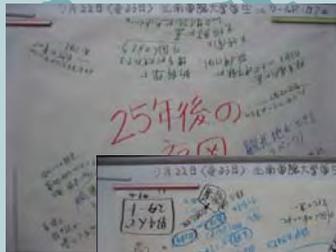
【都市計画】

- 背振山麓の芸術村構想
 - ・森の美術館の設立
 - ・温泉掘削
 - ・シンボル設置、公園整備
- 南部地域への定住街区の整備
 - ・関東、関西圏、中国・韓国の富裕層向け
 - ・一時的滞在先(別荘)
- ・古民家活用等によるペンションシェア
- 環境保全と観光化促進
 - ・街並み整備
 - ・世界遺産的な背振山系、野河内溪谷の活用
 - ・回遊バス・人力車・馬車・駐車場

【ソフト展開】

- 南北連携
 - ・北部商業と南部産業の恒常的連携
 - ・ツールドさわら、ミュージックさわら
 - ・国際コンベンション時の南部売り込み
- 留学生さん住みに来んね事業
- 南部地区限定!! 週末和服制度
- 大工さんによる町並みデザイン事業

お宝探しビジョンカフェ（西南大学編）



若者が活動・活躍
できる場がない！

■ビジョンカフェにおける意見

【国際交流】

- ・ 外国語で声をかけられても温かいリアクションのあるまち。
- ・ 福岡市民全体の語学力が向上している！！
- ・ 外国人観光客を迎える風土ができています。
- ・ 福岡を拠点に外国人が働きだす。中国人の移住。
- ・ 日本国内唯一の外国。福岡人と外国人のまち。
- ・ 子どもの国際交流。

【観光】

- ・ 大きな観光地ができて、観光客が増えている。
- ・ 福岡に人を呼び込むような特産品・グルメ（B級グルメ・脇山バーガーetc）があったらいい。
- ・ テーマパークができています。
- ・ アジアを中心とした多国籍の受入れ体制が整っている。
- ・ 雑誌等への情報も豊富で、多くの市民が福岡の街のことをよく知っているはず！！B級グルメスポットもあり！！
- ・ AKB48。
- ・ 関東にディズニーランド、関西にUSJ、そして九州にもこのようなテーマパークを作ったらどうか。
- ・ まだ知らない良い所をPRする。福岡ウォーカー的なもの。
- ・ わかりやすい娯楽とか、電器屋とかで外国人を呼込む。

【交通】

- ・ 交通の便も利用できるものが需要！！
- ・ さまざまな交通体系が整備。レンタサイクル。
- ・ 地下鉄などの交通機関が発達し、便利で暮らしやすい町都会を離れたら微妙なところもある。そこも繋げたらいい。
- ・ バス・地下鉄がもっと便利に。

【住みよいまちづくり】

- ・ 住みたい、好きだと思えるまち
- ・ 外国人、高齢者に優しいまち。住みよい都市。
- ・ 外国人に楽しい街づくり。
- ・ 若者の遊ぶ所が必要です。住みやすさは良い。

お宝探しの旅（早良区南部編）



渓谷、親水空間、牧場、
キャンプ場、美味しい食
べ物など、魅力が満載の
南部地区

お宝探しの旅（津屋崎編）



古民家を利用した日
 替わりショップ

色んなものに触れてみて思った...

どうやら...

何をするにしても...

始まりは、色んな人が色んな人に出会って、
どんどん**交わる**こと。これが大切なようだ...

- ◆人が仕掛ける。 (よそ者、ばか者、変わり者の力も)
- ◆人が継続させる。 (育成、継承する仕組み)
- ◆一人ではできない。 (ネットワーク、情報共有)
- ◆人とたくさん出会う。 (交流人口の増加)

早良区のどこに居ても出会いがあり、出会いが繋がりとない、繋がりが
「まち」とない、「まち」が人を育て発展させていく

そう！ 全ては「交流」から始まる！

早良区は「交流・人」づくりの適地！

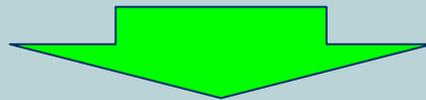
■早良区の特性で魅力ある交流を実現する

○南北にわたる豊富なまちの資源

- ・本市で最も広い面積と、海から山までの環境がエリア内に装備
- ・都市から田舎までの生活スタイル
- ・最先端技術研究から伝統的物産まで幅広い産業構造
- ・若者の存在（大学生や高校生の力が活かせる）

○「旅人」が滞在するまち

- ・旅行者、外国人などの「旅人」の滞在機会が既に存在。
- ・「旅人」の力をもっと活かせる可能性を秘めている。



■福岡市が目指す都市像の実現モデルとして

○「人と環境と都市の調和の取れたまち」 のモデルに！

早良区で活躍する「人の素」

- 大学生、高校生等が多く存在
- 新しい産業、まちおこしに必要な力

- 長老の力。伝統、文化資産の存在
- こどもの力
- 農業他、産業関係者
- まちを変えていくための決断の根幹

若者

地元人

勤め人

旅人

- 他都市、他地方からの観光等
- 帰省など、一時的な滞在
- 外国人の訪れ

- 新産業エリアの発展的展開
- Ｉターン等の促進
- 起業の促進
特に女性、クリエイタ、農業。移住への展開。

地元愛を培う「親戚倶楽部」

- 単身赴任、親元を離れ一人生活する学生等を対象に、本当の親族ような関係を擬似的に作り交流を行い、日々の生活に人の温もりを与える「親族倶楽部」。早良区がいつしか第2の故郷となるように...

☆疑似実家体験

- ・ 転勤、就学等で故郷を離れ早良区にきた「旅人」が「早良区に住んでよかった!」「福岡市に来るなら早良区に住みたい!」と思ってしまうプロジェクト。
- ・ 転勤族等のコミュニティを形成。親族倶楽部の入会手続き後、第2の実家(南部)となる疑似親戚世帯とマッチング。
- ・ マッチング後は、親子・親戚のような関係で農作物が送られてきたり、家に遊びに行ったり!
 - ★ 区役所での転入届け時にご案内!
 - ★ 入会時には会費を頂き、これに見合う農産物提供やおもてなしがなされる。



☆日常生活学生支援（遠くの親族より近くの学生の力で!）

- ・ 高齢者、障がい者家庭を対象にPC等によるネットワークを完備し、7人の学生（日替わり）と親族契約を締結。
- ・ ネットワークを通じてコミュニケーションを図り、日常生活で最も必要とされる「食料」「医療」「交通」などの問題を解消する。

外国人が活動しやすいまち

- 今後、諸外国（中国、韓国を中心に）からの訪問者へのおもてなしや、留学生、外国人ビジネスマンなど居住者へ、居心地のよい環境を早良区に用意。
世界中から集まった人々が活動、生活しやすいまちとなり、協力し合っこそ、本当のアジアのリーダ都市となれる。

☆外国人うえるかむプロジェクト（Sawarabowlカフェ、英語村、公民館、学校等で開催）

- ・ 無料外国語講座の開催（英語、中国語、韓国語）
- ・ 外国文化・歴史教室の開催
- ・ 日本文化教室（歴史、書道、華道、和歌、陶芸等）
※これらの教室受講者は、ボランティア登録へ！
※別途、大人版のアテンド活動は、様々なNPOやボランティア団体の活動と連携
- ・ Sawarabowlカフェ、英語村等において、在住外国人による外国文化、外国語教室の開催
※外国人への対応では、ギブアンドテイク方式で、日本語、日本文化講座の開催や、居住に関する特典を付与するなど、在日中の生活を支援する。



☆外国人おもてなし学生アテンド活動（外国人さんいらっしゃあ〜い隊）

- ・ 学生（小・中・高・大）がチームを編成し、通訳・ガイド・文化伝導を実施。
- ・ 学生の語学力アップ、国際的視野を身につけるとともに、福岡市の「まち」を自分の誇りと思える人材育成に繋がる。

早良区全体を繋げるビジネス展開

- 産業分野（業種間、南北間等のエリア連携）における人的交流が促進していくよう、ビジネスが生まれるまちを展開。
働く場所が増えていくことで、「住みたい場所＝働きたい場所」として、人の交流が定着するまちを実現する！

☆プチ起業塾の開催

- ・女性、若者(学生)、よそ者、業種転換などを図ろうとする人を対象に気軽に参加できる「プチ起業塾」を開催。（★津屋崎町、武雄市との連携を想定）
- ・起業したい業種の経験者を早良区に眠る人材から発掘し、講師に招くなど、地域で起業しやすい雰囲気醸成していく。



☆大人の職業体験

- ・北部の商店街・民間企業と南部の農家の職業体験交流。
- ・それぞれの経験を活かし、専門職外の中から柔軟な意見を発掘し、ビジネス展開に活かす。（異業種交流の促進）
- ・職業体験を契機に、経営革新、産業創出など、相乗効果を図る。

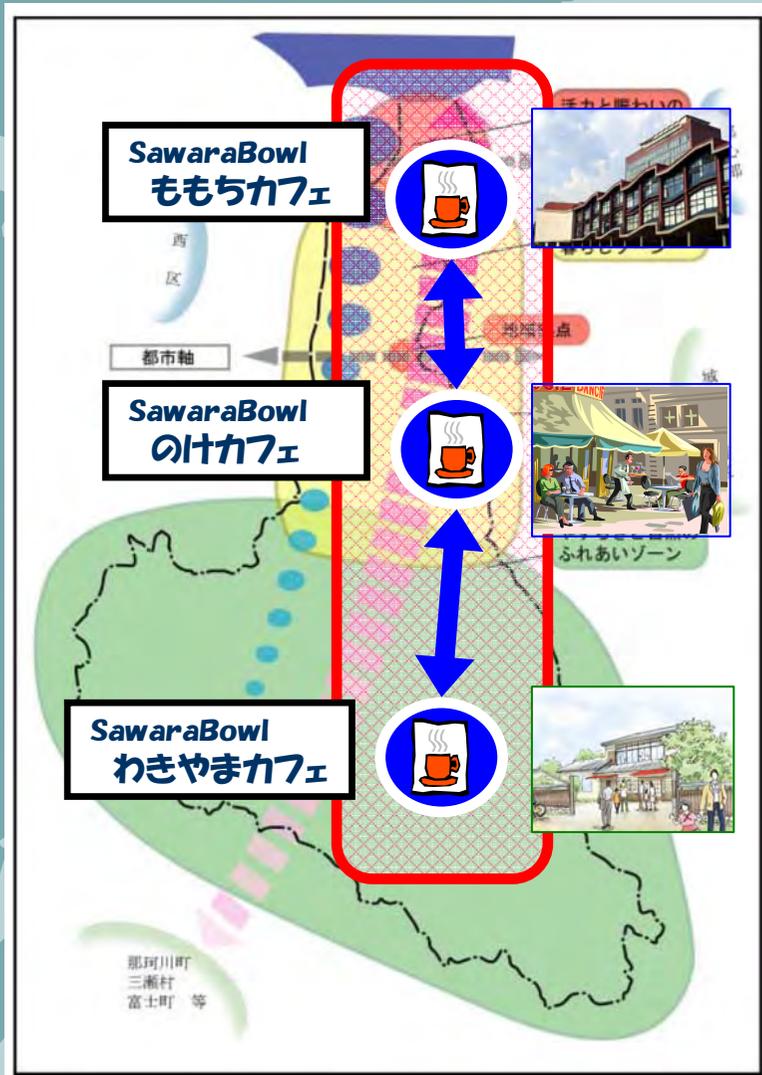


☆国内外からの企業や大学研究施設等の誘致

- ・先進的産業街区から豊かな自然エリアまで、バラエティに富んだ立地条件を活かし、国内外の企業や大学に対する誘致を促進。
- ・雇用の場、居住者の増加を創出。



交流活動拠点「SawaraBowl カフェ」オープン!



こどもから大人まで、色んな分野の誰もが参加でき、自由な発想で、早良区、福岡市の将来を語り合い、活動できる場所として設置します!

■設置箇所

★早良区内に3カ所の活動拠点をオープン

■施設での活動内容

- ★「SawaraBowl ワールドカフェ」定期開催
 - ・人的交流、育成に係る活動
 - ・各種まちづくり活動
 - ・情報共有活動（「Facebook」を活用）



■施設内容

- ★カフェ
- ★交流活動スペース
- ★滞在スペース

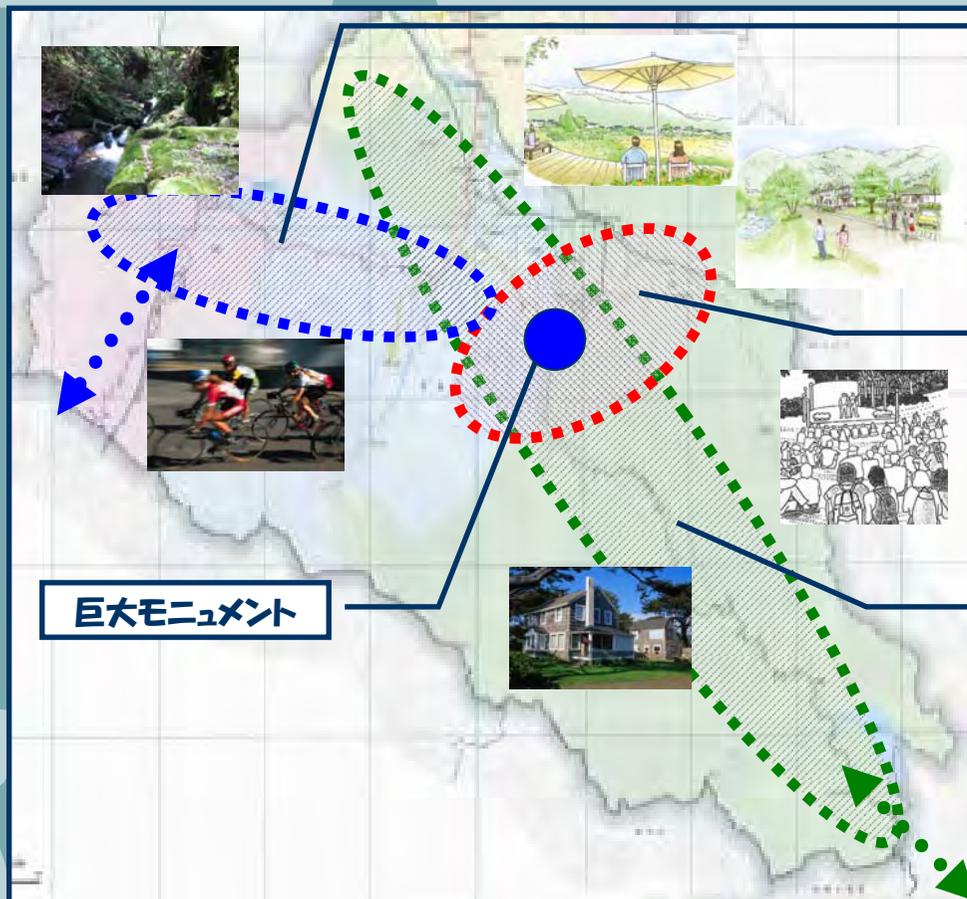
■運営形態

- ・産学官民の共同体でスタート
 - ※将来的には民間主体
- ・3カ所は一体的に運営



背振山麓の芸術村構想

- 自然が豊かで閑静なエリア「背振山麓」に芸術村が出現！
 また、クリエイター、芸術家、富裕層・有名人らの活動地、居住地、避暑地活用とともに、観光客、外国人の受け入れ、その他の移住者支援などの環境を整える。



観光・アクティブゾーン

- ◆物販・飲食店ゾーン（新規出店支援）
- ◆アクティブゾーン案内所
- ◆アドベンチャーレースの開催
- ★ツールドさわら、さわら縦断マラソン大会等

アートゾーン

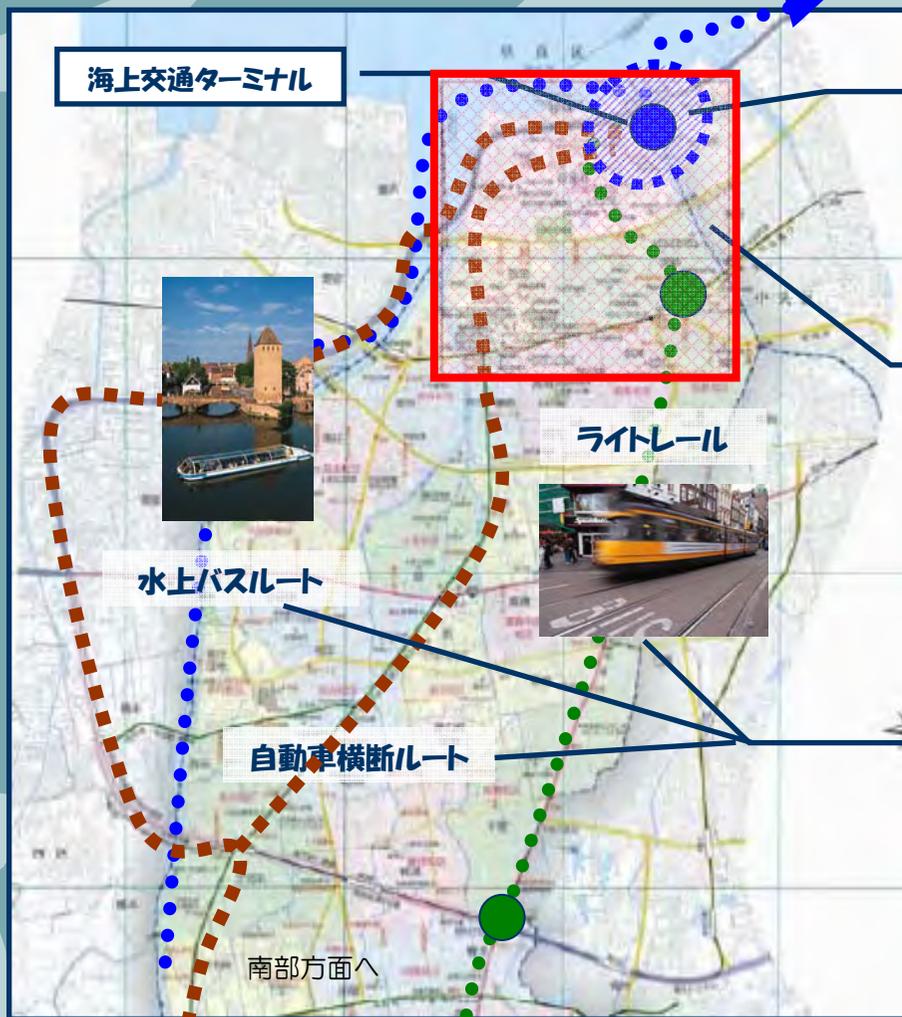
- ◆森の美術館設立
- ◆デザイン系大学の開校
- ◆芸術村住居ゾーン（ゲストハウス）
- ◆野外音楽ステージ

7千避暑地・移住ゾーン

- ◆田舎暮らし体験（食、自然、休暇）
- ◆温泉掘削 ◆観光馬車 ◆UDキャンプ場
- ◆古民家・ニュータウン活用による移住支援
- ◆富裕層・著名人を対象とした別荘ゾーン
- ◆企業用宿泊施設

サステイナブル&新ゲートウェイ構想

- 北部（西新～シーサイドももち）地区を中心とした持続可能な都市（サステイナブル・シティ）として、環境に配慮した人中心の社会を構築する。



アジアの新ゲートウェイゾーン

- ◆海上交通ターミナル設置（百道浜～地行浜の中心）
 （国際：ビートル 国内；水上バス交通）
- ◆ホテル、商業施設等と一体となった整備

北部サステイナブルゾーン

- ◆自動車入車規制 ◆ゾーン外の駐車場整備
- ◆歩行者天国WEEKの実施 ◆公共交通料金無料WEEK
- ◆車道を活用したイベント開催 ◆レンタサイクル
- ◆車道の緑化、自転車・歩行者道の整備強化 etc.

早良区縦断交通網整備

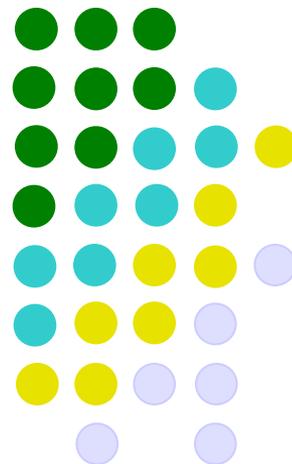
- ◆室見川→水上バス
- ◆国道263号→ライトレール、自転車レーンの整備
- ◆幹線道路の車両誘導

ご静聴、ありがとうございました。

誰でも楽しく簡単に参加 できる福祉を



～ 世代・地域を越えた新たな交流と生きがいを求めて ～



早良区提言チーム「いきいき生活支援チーム」

**25年後の
VISION**

**「相互ボランティアと
交流のまち・早良区」の実現**



まず、早良区から始めよう！！

①世代を越えた

地域交流拠点・情報拠点づくり

②ボランティアポイントの創設

③ボランティアコーディネーターの

育成・登用

提言 1

世代を越えた

地域交流拠点・情報拠点づくり

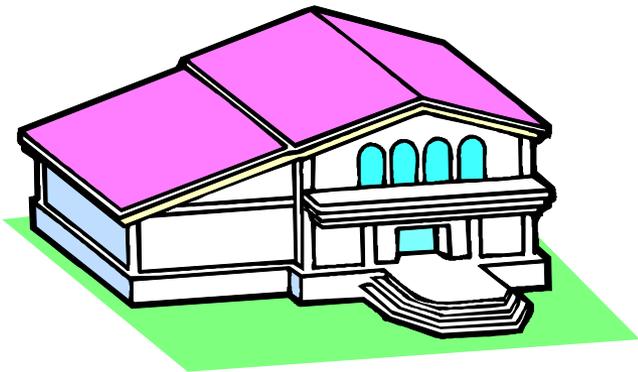
世代を越えた地域交流拠点とは



赤ちゃんから高齢者まで利用できる、
昔の大家族のような施設を作り、
世代間交流を通して地域の活性化につなげる。

大家族的施設のイメージ像

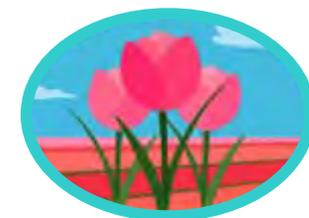
大規模な施設



- 地域交流の中核として早良区内に数ヶ所設置。
- 統廃合して使われなくなった学校、老朽化した公民館を建て替える。
- 子ども園と、住民が使用するフリースペースのある施設を併設。

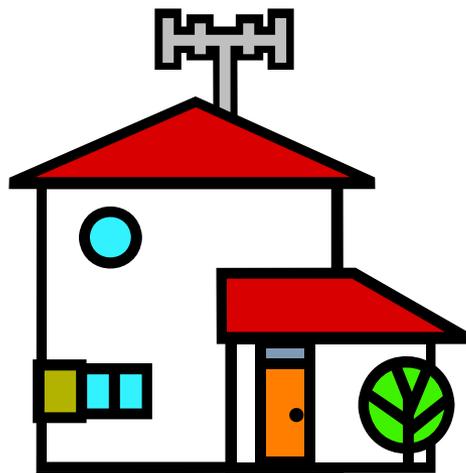
施設内では

- 高齢者や学校帰りの子ども、子育て中の親など地域住民が自由に利用できる。
- 季節のイベントを毎月開催する。
- 住民の意見に合わせて講習会等を開く。
- 子ども園の行事に施設利用者が参加。
- 高齢者がくつろげる畳の部屋あり。
- 学校の跡地では、畑を作り、利用者が自由に野菜や花を植えることができる。



さらに・・・

小・中規模の
施設

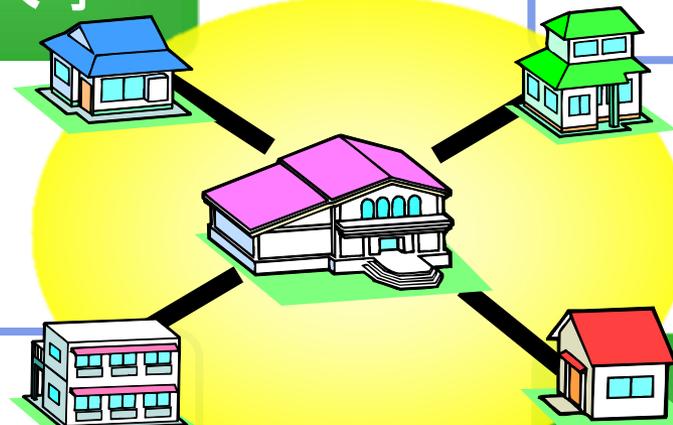


- 人口や利用者数にあわせて、校区に数ヶ所設置。
- マンションやビルの一室、民家を利用する。
- 子どもの一時預かり、地域住民の憩いの場に。

すべての施設でできること

ボランティアや
イベント、子育てに
関する情報入手

HPからも
ボランティア求人の
検索が可能



施設からの
送迎バスあり

医療スタッフ常駐
気軽に健康相談

地域に与える効果

1. 高齢者が元気に過ごせる

子どもたちと
一緒に遊ぶことで、
元気になる！

2. 子育て中の親の支援

緊急時の一時預かり
もできる。
親同士の交流の場。

3. 子どもたちの社会勉強の場に

視野が広がる。
思いやりの心を
育てる。

4. 気軽にボランティアできる

誰でもできる簡単な
ボランティアを経験。
→ボランティアの敷居
を低くする。

提言2

ボランティアポイントの創設

ボランティアポイントとは

地域住民や市民団体が行うボランティア活動、
地域活動などの社会貢献活動にポイントを付与し、
ポイント数に応じて特典を付与するもの。

ボランティア活動・地域活動 に参加していますか



住民参加による地域での助け合い、支え合い活動

現状 活動に参加する市民が少ない

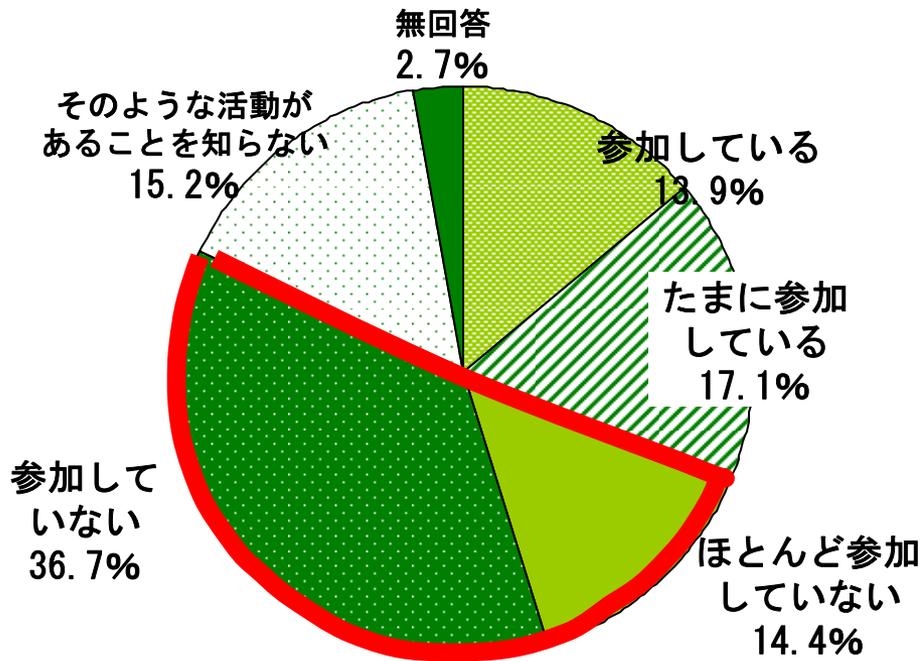
住民意識

平成21年度市政に関する意識調査

全体 (N=2633)

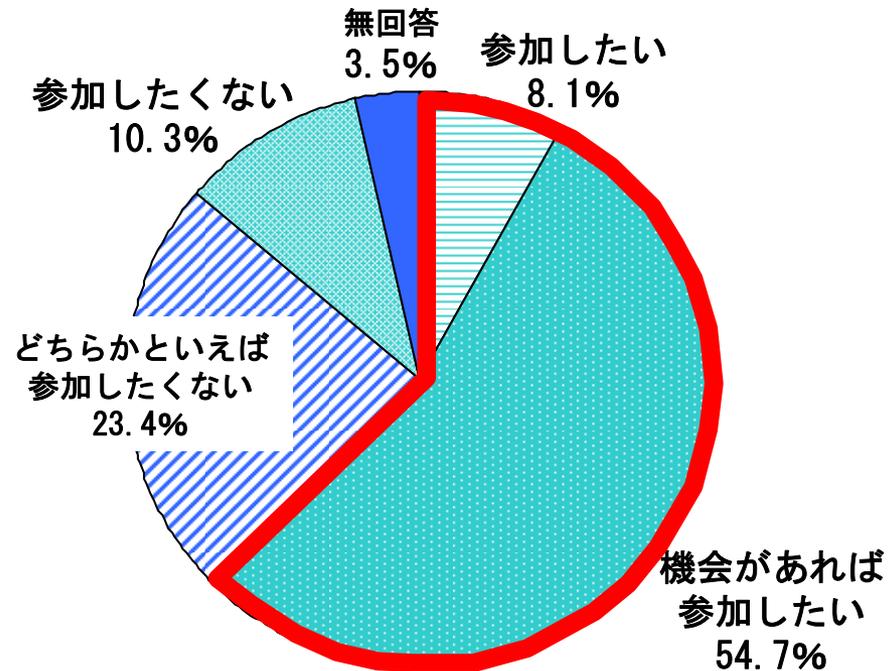


地域活動への参加状況



参加している 31.0%
参加していない 51.1%

地域活動への参加意向



参加したい 62.8%
参加したくない 33.7%

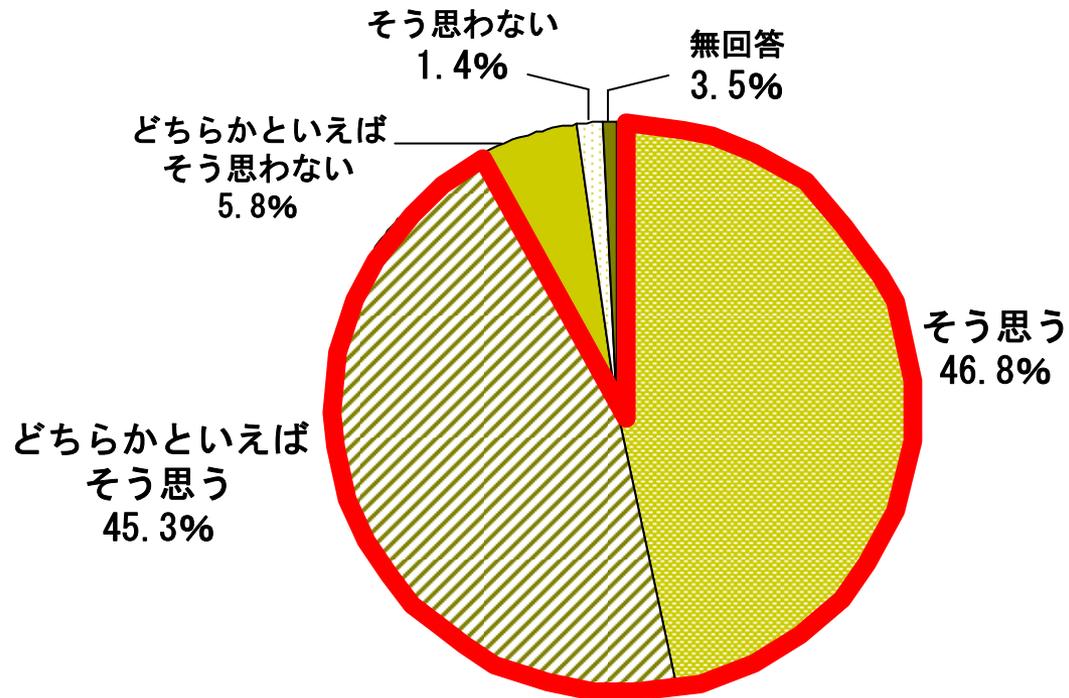
住民意識

平成22年度市政アンケート調査

全体 (N=554)



地域を住みやすくするために、地域活動を行うことが大切と思うか



参地域活動を行うことが大切と思う 92.1%

ボランティア活動・地域活動 に参加していますか



住民参加による地域での助け合い、支え合い活動

現状 活動に参加する市民が少ない
参加者が固定的
リピーターになる人が少ない

課題と目標

課題

●活動に理解や興味があるが行動に移さない



目標

参加することへの
きっかけ
インセンティブ

●継続した活動につながらない



やりがい・達成感
楽しみながら
続けられる仕組み

高齢者も子ども、男女問わず、誰でも簡単に利用できる。



ボランティアポイントの創設

ボランティアポイント①

登録



10P

媒体:ICカード



利用

■特典と交換



施設利用料
窓口手数料
クーポン券

参加



30P

ボランティア研修



10P

福祉支援企業での
飲食・商品購入



50P

清掃活動

ポイントが
貯まる

現在のポイント
合計
100P

■市民活動団体支援



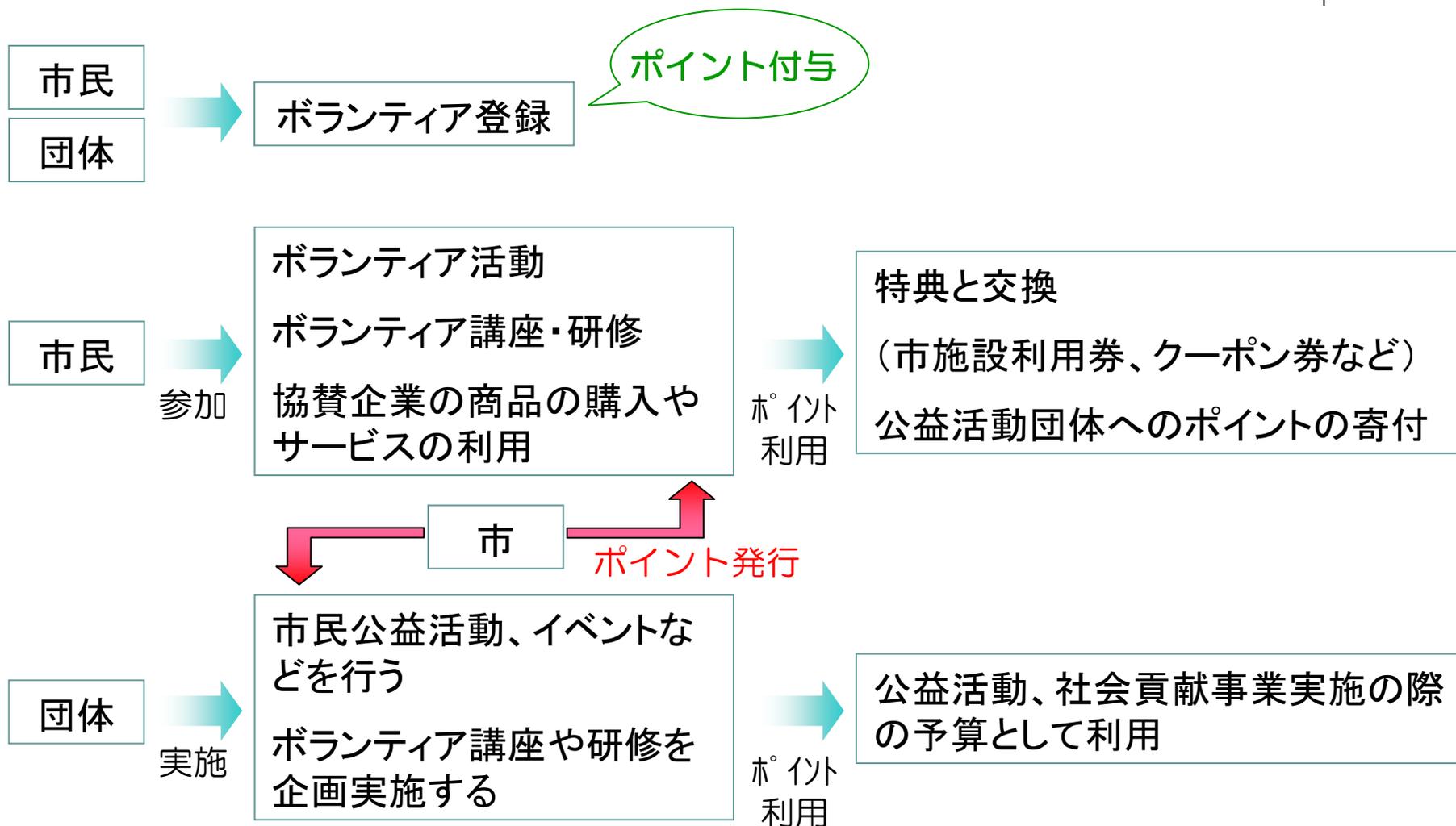
100P

ポイント
を寄付



市民団体の
活動資金に

ボランティアポイント②



提言3

ボランティアコーディネーターの育成・登用

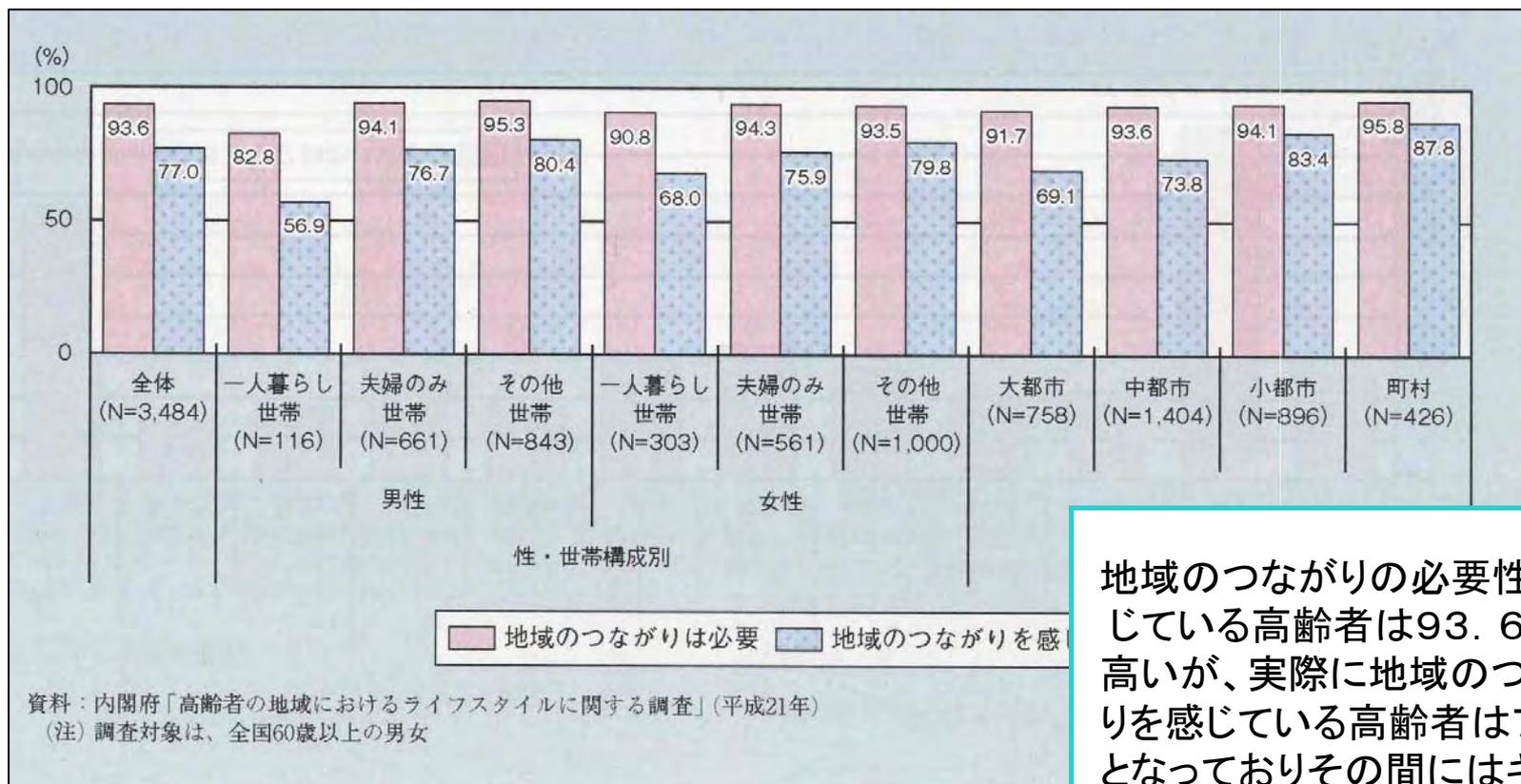
地域活動の担い手として期待できる

高齢者

- 地域に比較的長く居住している
- 地域活動に抵抗が少ない
- 時間的・経済的に余裕がある

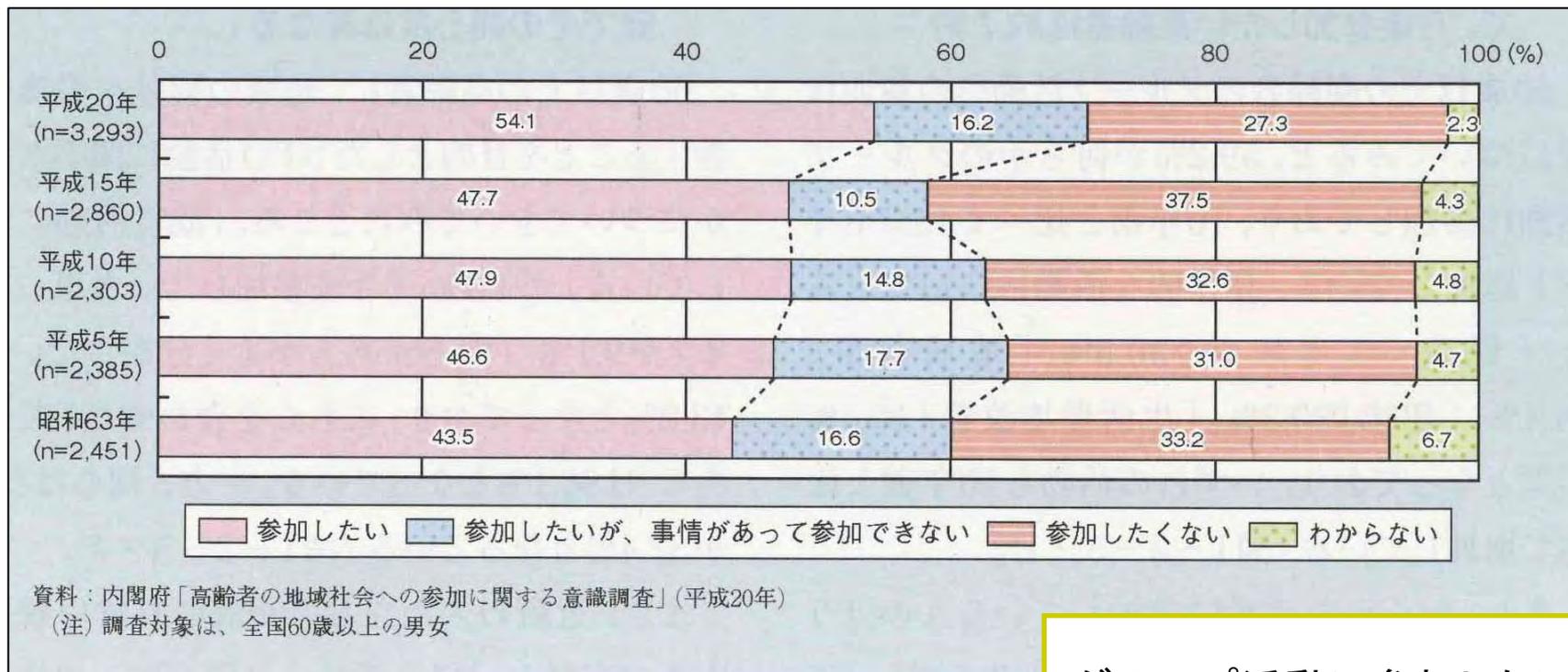


地域とのつながり



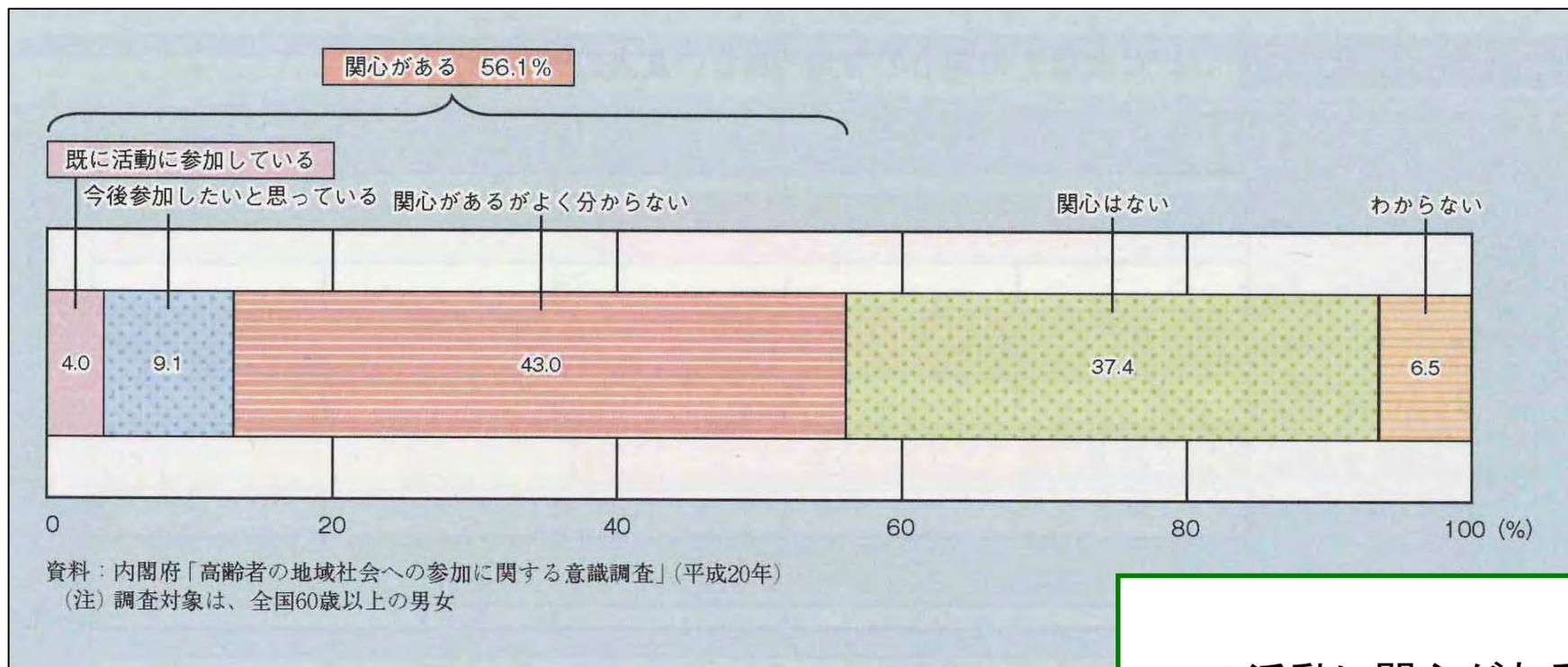
地域とのつながりの必要性を感じている高齢者は93.6%と高いが、実際に地域とのつながりを感じている高齢者は77%となっておりその間にはギャップが存在する。

グループ活動への参加意欲



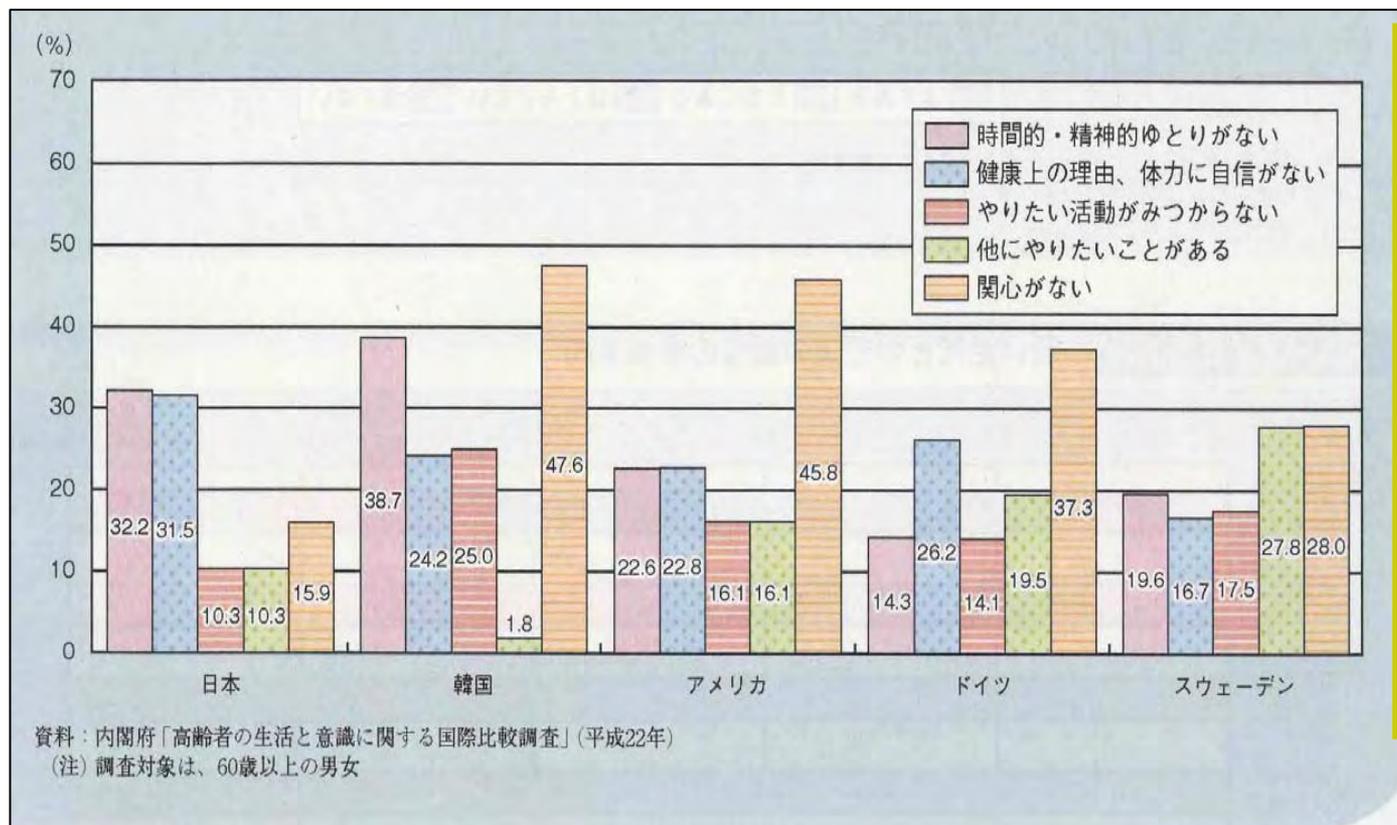
グループ活動に参加したい
という高齢者は54.1%

NPO活動への関心について



NPO活動に関心がある
高齢者は56.1%

参加できない理由



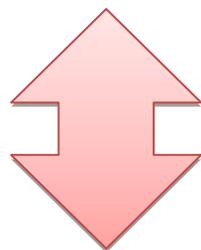
高齢者にボランティア活動その他の社会活動に参加しない理由を聞いたところ、「時間的・精神的ゆとりがない」「健康上の理由、体力に自信がない」が上位を占めた。

人材発掘



ノウハウのある人材

- 退職後の企業人・公務員
- 一線を退いた経営者 等



熱意ある人材

- 起業したい人
- Uターンしたい人

どんな人材を育てるべきか

- ボランティアコーディネータは民間団体や民間人の立場であるが、行政と共働し、地域住民の力や事業者に協力を求めながら地域の生活課題を解決することを目的とする。
- 求められる資質としては、住民等の話をよく聴き、関係各方面に広くアンテナを張り、関係機関と連携協力をとれること。また、総合的企画力を持ち、個々の生活課題に対して「楽しみながら」問題解決が図れる人材である。

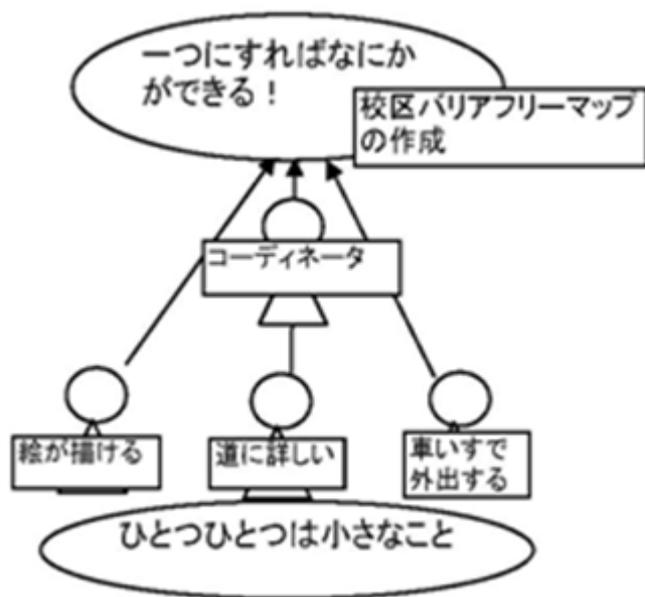
ボランティアコーディネーター の役割①



<STEP1>

できることから始めよう

例



住民のできる範囲
でできることを持
ちよること
小さなことが集
まって大きな力に
なる。

ボランティアコーディネーター の役割②



<STEP2>

継続は力なり

例

繰り返し参加したい楽しい企画づくり

ボランティア企画コンベンション

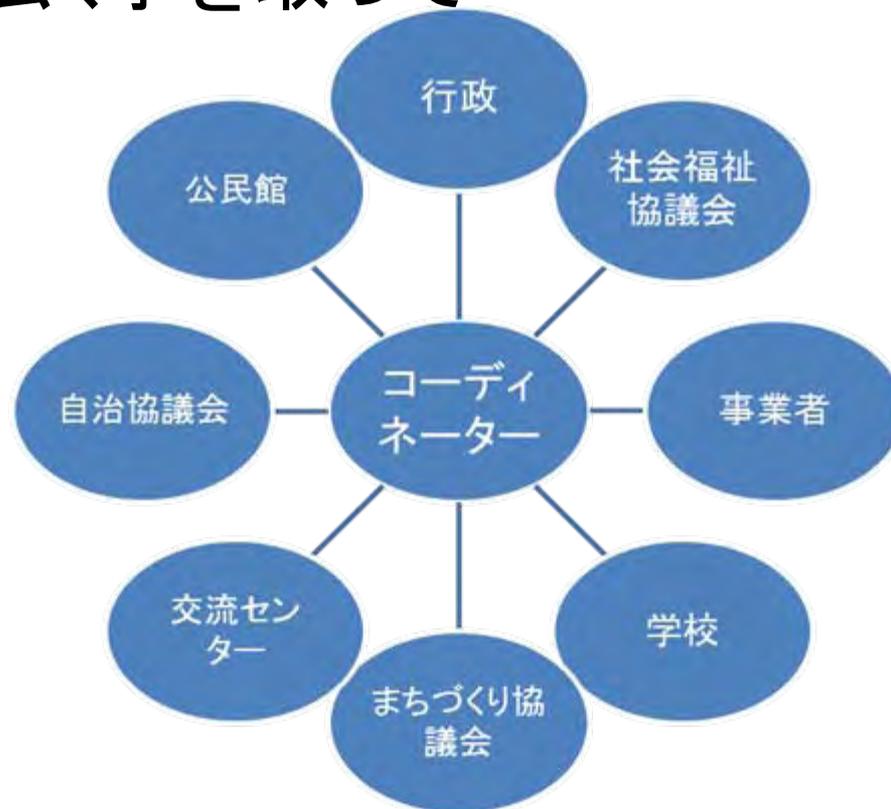
「楽しい」「参加してみたい」をキーワードに魅力あるボランティア企画を公募する。審査は地域コミュニティの代表者やNPO活動代表者で行う。優れた企画は地域コミュニティで実際に実施する。また、協賛の企業等から(ささやかな)商品も？
起案者が実施する場合には人や金品の提供もある。

ボランティアコーディネーター の役割③



<STEP3>

関係機関と広く手を取って



25年後に向けて

私たちができること、皆さんにお願いしたいこと

<私たちができること>

日頃から健康づくりに
関心を持つ。共通の
趣味を持つ仲間や
友達と交流を深める

まず、ご近所さんと
仲良くなる

地域情報に対して
アタタタに、積極的に
参加する。

地域活動に
参加して
楽しむ。

身構えが、
気軽にボランティア
に参加してみよう!
良い出会いもあるかも?!

人と人との絆を
大切にしたい

世間に
"め"を向けます。

25年後
に向けて

自分ができること
を見つけましょう!!

自分の住む地域に
もっと興味を持って
いきたい。

皆さんに
お願いしたいこと

まずは、自分ができる
範囲から、地域活動の
お手伝いをしてみませんか!

とにかく
外へ出ましょう!

自分の力や言葉で
まず行動をとる

自分ができることを
探してみませんか?
一歩ふみだそう!!

ありがとうございました。



Presented by 「いきいき生活支援チーム」

市民税課	浅野 順子
固定資産税課	青木 優
生活環境課	居石 敢三雄
子育て支援課	上木戸 知会子
地域保健福祉課	中野 美穂
保護課	中村 綾
総務企画課	濱口 純子

※いきいき生活支援チーム

早良区に住むすべての住民が生き甲斐を持ち、「いきいき」とした毎日を過ごすことができること、また、そのためにお互いに地域に住む住民同士で支援しあうことを願ってつけたチーム名です。

アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクト

早良区提言チーム「いきいき生活支援チーム」

誰でも楽しく簡単に参加できる福祉を

～世代・地域を越えた新たな交流と生きがいを求めて～

25年後のビジョン

「相互ボランティアと交流のまち・早良区」の実現

地域の生活課題を共有し、子どもも高齢者も障がい者も健常者も、すべての人が、また市民・地域コミュニティ・NPO・企業・行政など地域に関わるあらゆる主体がパートナーシップを深めあいながらともに行動する。

住民主体となって、地域の生活課題に対し自発的に取り組み、地域住民の交流を通じ共働による主体的な福祉活動を目指す。その場は、住民による社会貢献・自己実現の場でもある。



＜具体的な共働の仕組み＞

- ・ 行政による公的な福祉サービスに加え、地域による地域のための新たな福祉サービスのあり方。
- ・ 地域住民のいきいきとした生活のための交流促進・新たな生き甲斐づくり
- ・ 誰もが参加しやすい参加型のボランティア活動促進
- ・ 自分の住む地域の生活環境向上に主体的に関わりたいと思わせる仕組み

福祉 (Welfare) という言葉が意味するものは「幸せ・豊かさ」である。福祉を提供するのは行政の責務である。今日では事業者等が利益追求のみならず、地域に貢献する事業者として地域の「幸せ・豊かさ」を実現しようとしている。また、地域に暮らす住民個々が自らの「幸せ・豊かさ」を求めるのは自明の理である。

3者は地域の「幸せ・豊かさ」を求めているという共通の目標に向かって手を取り合うことができるのではないだろうか。

新たな福祉の担い手として市民による地域コミュニティや企業・大学といった事業者を想定し、ともに手を取り、ともに知恵を出し合い、ともに汗をかいて「新しい福祉」を追求する社会の仕組みを作る。これは、福岡市すべてに共通する目標であるが、まず、早良区から導入していく。

〈はじめに〉 ～失われた地域交流～

かつて、我々の住む地域には地域の交流があり、何処に誰がどんな状況で暮らしているかは地域で当たり前で把握していた。冠婚葬祭や地域の行事は地域の担うべき重要事項であり、地域の一員として認められるかどうかはその地域で生きていく上で重要なことであった。それは、農業をベースに自然災害と戦う上で必要な生活の知恵であり、福祉施策が国の重要政策でなかった時代の地域の福祉を兼ねていた。「味噌・醤油」を貸したり借りたりといった近所づきあいから、独居老人の日常の世話、子どもを預かったり預けたりと地域共同体の中でのやりくりから排除されることは地域で生きていく基盤を失うことであった。

1970年代より日本が高度成長をむかえ、産業構造の変化が起こった。地域は働く場所ではなくなり、就業の場と生活の場が切り離された。以前の農業を基盤とする地域共同体は解体され、世帯構成の変化により冠婚葬祭等の行事は家庭外・地域外へとシフトしていった。そのころ建設された大型団地・ニュータウンには同年齢・同一階層の世帯が多く入居し、以前の地域が持っていた多様性（高齢者から子どもに至るまで同じ地域に住んでいた）が失われた。

地域にかかわらずとも生活できる、それは日本古来の古い因習から自由になれるという魅力でもあった。住居には鍵がかかり、プライバシーは守られた。

その結果、現在、どうなっているのでしょうか？

	北部	中部	南部
高齢化率	10.7%	13.5%	17.5%
1世帯あたりの人員	2.18人/世帯	2.53人/世帯	2.93人/世帯

(早良区の地域別高齢化率・1世帯あたりの人員)

以上のことより、25年後の課題が浮かび上がってくる。

●高齢化による問題

- ・独居老人の増加、孤独死の問題。

- ・ 医療費の増大。
- ・ 元気な高齢者の生きがい・居場所作りが不可欠

●核家族の増加による問題

- ・ 子育てする親への負担の増加。
- ・ 子どもが高齢者と接する機会の減少。

●地域とのつながりの脆弱化による問題

- ・ 文化・伝統の受け継ぎが困難。
- ・ 住民モラルの低下

以下、理想を現実とするための条件として下記3点が必要である。

- ・ **交流拠点**
 - ・・・地域交流のための拠点となる「場」の提供。
- ・ **自発的な福祉活動**
 - ・・・住民同士の支え合いによりお互いが尊重される地域社会の「仕組み」
- ・ **住民主体**
 - ・・・住民のなかから、福祉の担い手として活躍する「人材」づくり。

⇒そのため、その3点を実現するためのひとつの具体案として下記3つを提言する。

- ① 世代を越えた地域交流拠点・情報拠点づくり
 - ・ 縦割りを撤廃した幼児から高齢者・身障者までの大家族的施設の創設
 - ・ ボランティアをしたい人・欲する人の情報拠点づくり
- ② ボランティアポイントの創設
 - ・ ICカードを利用しポイント制を導入し、ボランティア活動を活性化
- ③ ボランティアコーディネーターの育成・登用
 - ・ 住民主体の地域活動推進のためにリーダーシップをとる人材の育成・登用

提言1 世代を越えた地域交流の拠点作り

子ども園を中心として、赤ちゃんから高齢者・障がい者まで利用することのできる施設を設け、昔の大家族のような空間を作り、世代間交流を通して地域の活性化につなげる。

また、ボランティア情報（したい人、欲している人）・イベント情報・子育て情報など情報の拠点も兼ねる。

<施設のイメージ像>

☆ 地域交流の拠点として早良区内に数ヶ所大規模な大家族的施設を設置する。また、人口や利用者数にあわせて校区に数ヶ所、小・中規模の施設を設置する。

大規模 ・ ・ 老朽化した公民館、少子化により統廃合され使われなくなった学校、等を建て替え・改装し、子ども園とそれに併設する赤ちゃんから高齢者まで利用できる大家族的施設を作る。

施設内は、利用者が自由に使い、イベントを行うことができるフリースペースがある外、高齢者がくつろぐことができるような畳の部屋もある。セキュリティの問題上、子ども園とその他の施設は区切られているが、子ども園のお遊戯会や行事の際には、互いに行き来することができる。施設では季節のイベントを毎月催すとともに、利用者や地域住民の意見に合わせて講習会等を開催することもできる。

小学校の跡地を使った施設では、広い敷地を生かして、畑を作り、施設利用者が自由に野菜や花を植えることもできる。

小・中規模 ・ ・ マンションやビル等の一室や、民家を利用して地域住民の交流の場を作る。早良区の北部など、敷地の確保が困難と予想される地域でも設置が可能となる。

ここでは、赤ちゃん・小学校就学未満の子どもの一時的預かりを行う。また高齢者や学校帰りの子ども、地域住民が集まって一緒に遊んだりお茶を飲んだりすることができる。

☆すべての施設に医療スタッフが常駐しているため、高齢者や赤ちゃんでも安心して利用でき、また利用者や地域住民が気軽に健康相談をすることができる。施設へは送迎のバスが出ている。

☆施設のHPにアクセスし、ボランティアの条件等（単発か定期か、地域、活動分野など）を入力し検索すると、条件に合ったボランティアの情報が得られる。
イベント情報や子育て情報を含め、施設でも情報は得ることができる。

<地域に与える効果>

1. 高齢者が元気に過ごせる

昔の大家族のような環境の施設で、老人ホームの寂しいイメージを払拭する。一人暮らしの高齢者や、身体が不自由で出かけるのが困難な高齢者も気軽に訪れることができる。高齢者は子どもと笑ったり怒ったりしながら一緒に遊ぶことで、子どもたちのパワーをもらうことができ、リハビリにもなる。介護されるだけでなく、赤ちゃんや子どもたちがそばにいて自然と面倒を見てあげることができ、誰かの役に立っているということを感じることができる。

2. 子育て中の親の支援

幼稚園と保育園の両方の機能を備えており、小学校就学未満の子どもを預けることができる。小学校以上の子どもも放課後・長期休暇時等に利用することができる。急な用ができたときの一時預かりもできる。また、子育てする親同士の交流の場にもなる。

3. 子どもたちの社会勉強の場に

高齢者と生活したことのない子どもが増える中、幅広い年齢層の人々と触れ合うことで、様々な知識や文化を吸収することができ有意義な体験になる。また、力の弱い人をいたわる思いやりの心を育てる。

4. 気軽にボランティアできる場所

子どもたちに勉強を教える、高齢者の話し相手、散歩の付き添い等、学生やボランティア初心者でも簡単にすることができる。ボランティアの敷居を低くすることで、将来のボランティア人口を増やすことにもつながる。もちろん、ボランティアポイント（提言2）がつく。

<先進事例>

他都市にある、世代間交流・地域交流の拠点となっている事例

- ・港区立芝浦アイランド 子ども園 児童高齢者交流プラザ（運営事業者：東京 YMCA）
- ・江東区児童・高齢者複合施設 グランチャ東雲（運営事業者：東京 YMCA）
- ・宅幼老所 なかむら（運営事業者：NPO 法人なかむら）
- ・幼老複合型ういず（運営事業者：社会福祉法人みかり会）

提言2 ボランティアポイント(仮称)の創設

現在、さまざまな団体（NPO団体等）や地域コミュニティにおいてボランティア活動や地域公益活動が展開されているが、実際に参加している市民はまだまだ少数である。

平成21年度市政に関する意識調査において、住民参加による地域での助け合い、支え合い活動（防犯、防災、環境美化、その他ボランティアなどの地域活動）への参加状況を調査したところ、「参加している」が約3割、「参加していない」が過半数であったが、地域活動への今後の参加意向では、「参加したい」人が6割強であった。

さらに、平成22年度市政アンケート調査では、地域活動を行うことが大切と思うかという問いに対して、「大切と思う」と回答した人の割合が9割を超えており、多くの人が地域活動を行うことが大切だと思っていることがわかる。

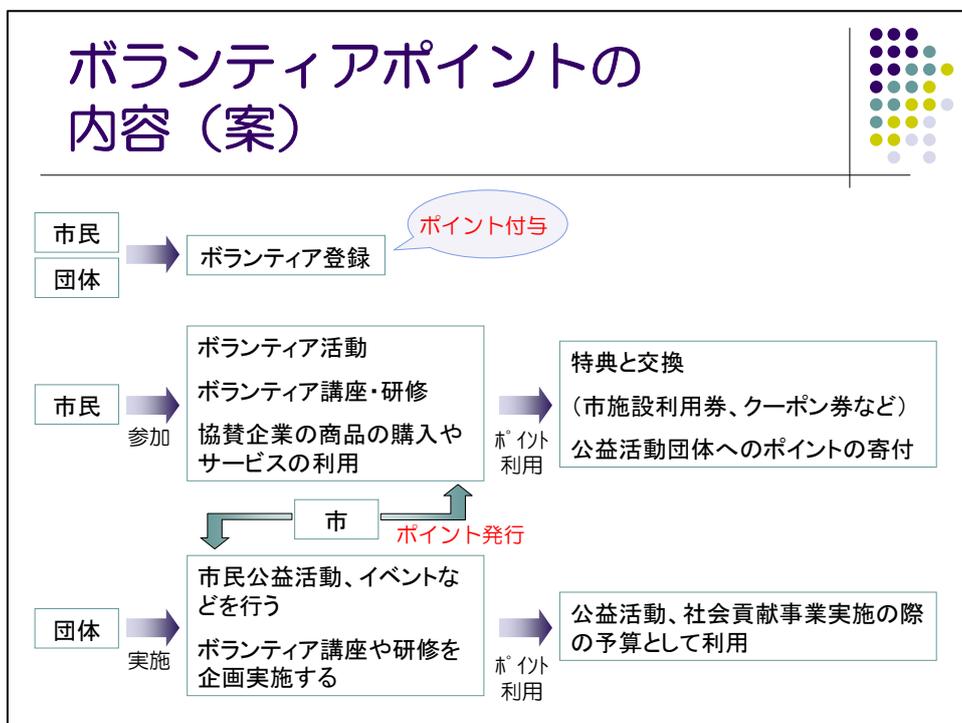
また、福岡市ボランティアセンターに登録している個人ボランティアの活動状況について、早良区社会福祉協議会でお話を伺ったところ、参加者は固定的であり、反対に、初めての参加者については、リピーターになるのはわずかであるとのことであった。

これらの調査結果から、地域活動への理解や興味があっても行動に移さない、参加しても継続した活動につながらないという課題が見えてきた。

これらの課題を解決するためには、地域活動に参加することへのきっかけやインセンティブをつくること、また、参加回数や貢献度が見える形にして、やりがいや達成感を引き出し、楽しみながら続けられる仕組みをつくる必要があると考え、ボランティアポイント制度の創設を提言する。

<ボランティアポイント制度とは>

市民や団体が行うボランティア活動、地域活動などの社会貢献活動にポイントを付与し、ポイント数に応じて特典を付与するもの。



登録する

- ・ 市民がボランティアとして登録する
- ・ 個人だけでなく、団体（NPOや市民活動団体など）としても登録可能とし、団体が行う活動やイベント等に対してもポイントを付与する（市が依頼するものや共催するものに限るなどの一定のルールが必要）

ポイントを貯める

- ・ 市が指定するボランティア活動に参加する
- ・ 市指定の施設、企業で指定を受けた商品やサービスを購入する
- ・ 市が主催・共催するボランティア講座や研修等に参加する

- * 登録した時点で1回使えるくらいのポイントを付与
- * 登録後、初回のボランティアでは通常よりも多くのポイントを付与するなど、ポイントを使う楽しみも知ってもらい、継続意欲を高めるしかけをつくる。
- * 付与ポイントについては、所要時間や、内容の難易度、需要などに応じて市が設定。
- * ポイント数に関わらず、ボランティアの述べ参加数に応じてカテゴリー分けをし、ボランティアの参加頻度が高いカテゴリーになると付与ポイントの利率を上げる

ポイントを使う

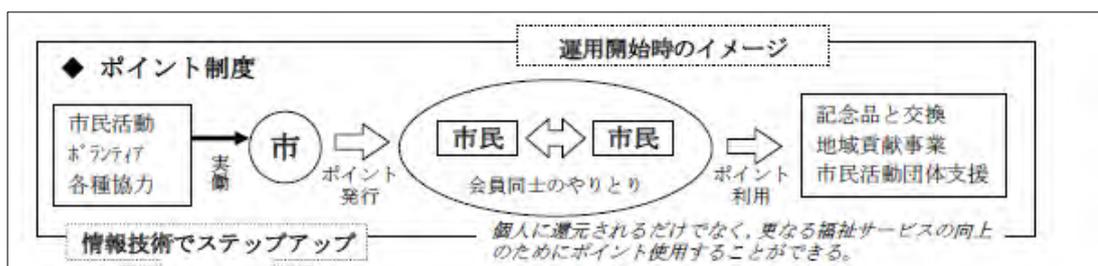
- ・ 50ポイントコース、100ポイントコースなどコースを設定。ポイントに応じて、それぞれのコースのクーポン券を発行。
- ・ コースの中から交換するサービスを自由に選択し、クーポン券を利用。
- ・ 公益活動を行う団体（NPOや市民活動団体）に対して、貯めたポイントを寄付する。（団体には寄付されたポイントに応じて助成金を交付）

<交換サービス例>

- ・ 区の施設の利用料（体育館、博物館など）
- ・ 区の窓口サービス手数料（住民票の発行など）
- ・ 地下鉄乗車券
- ・ 特定健診受診料
- ・ 協賛している地元商店街や企業の商品やサービス

<先進都市の事例> 茨城県笠間市

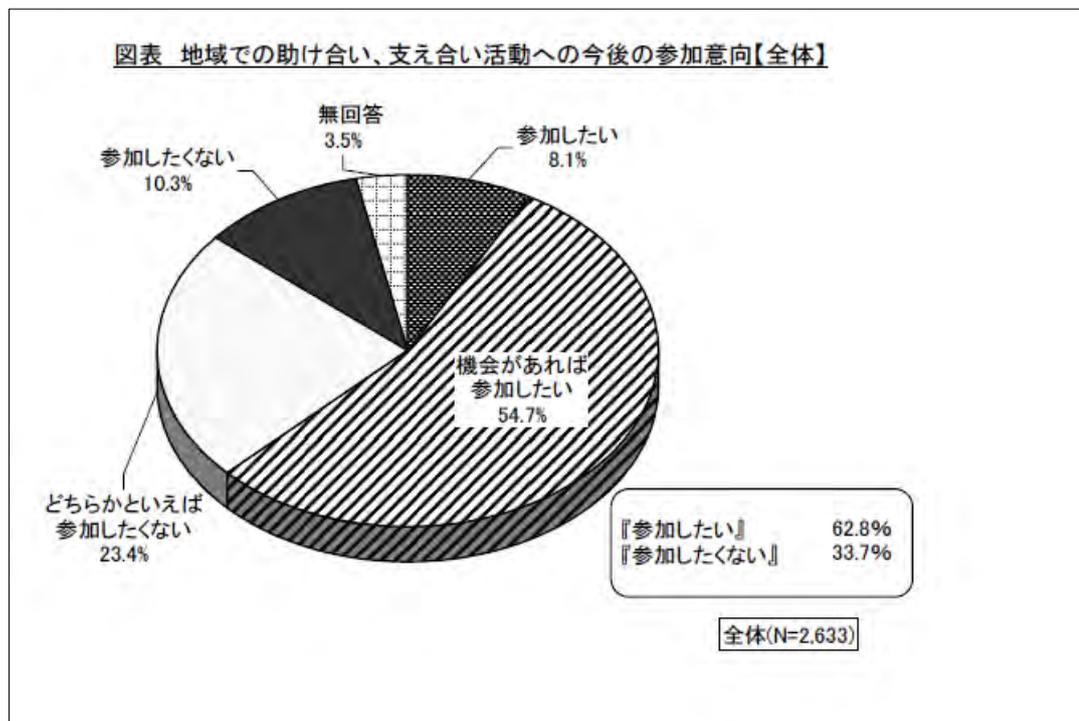
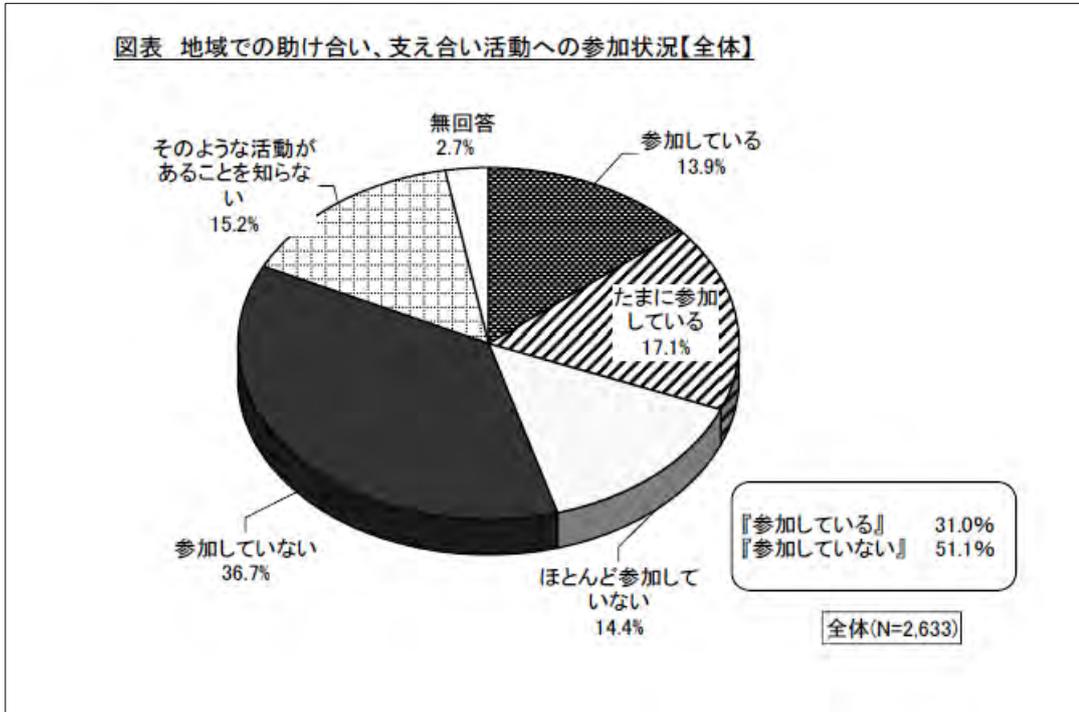
茨城県笠間市において、行政施策における市民参加の推進、公共的な活動に対する人材確保、新たな市民活動の人材育成、活動の付加価値化によるやりがいや楽しみの創出などを目的として、ICカード（フェリカ）を用いた地域ポイント制度を社会実験的に実施している。

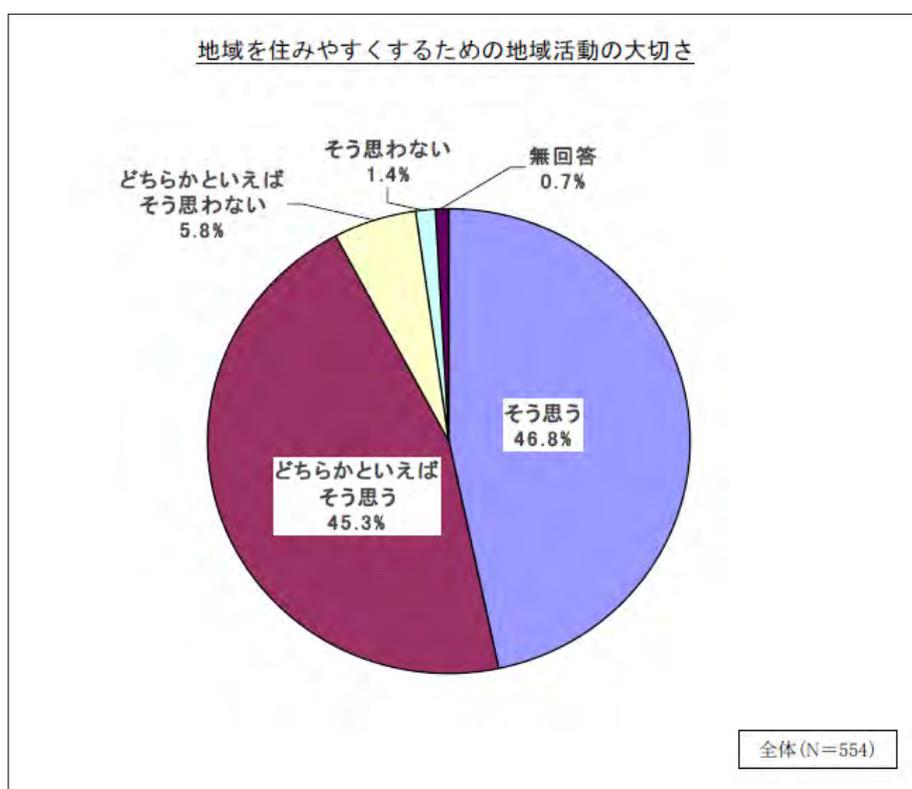
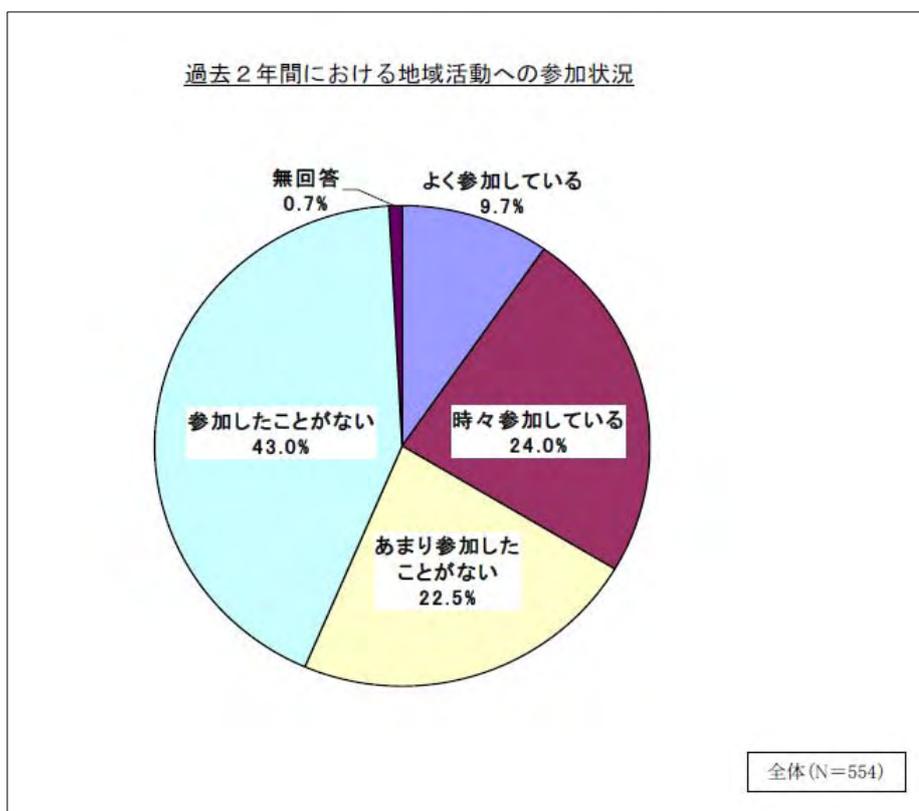


イメージ図： 笠間市ホームページより引用

<参考資料>

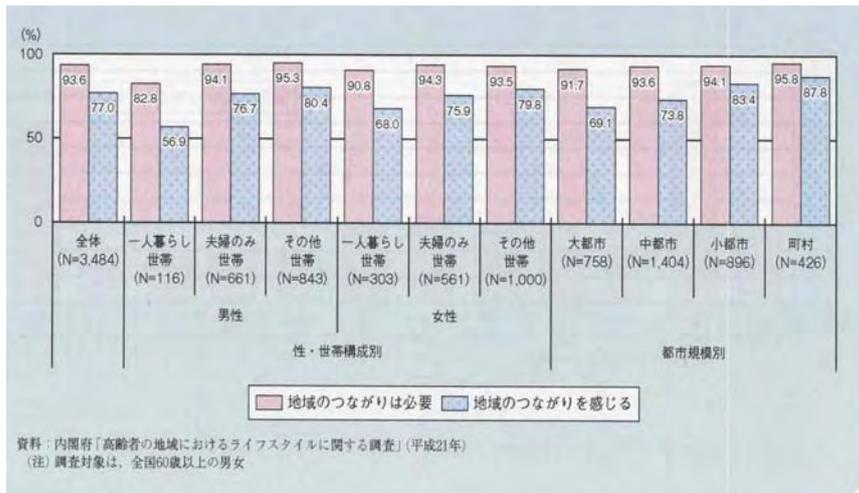
平成21年度 市政に関する意識調査





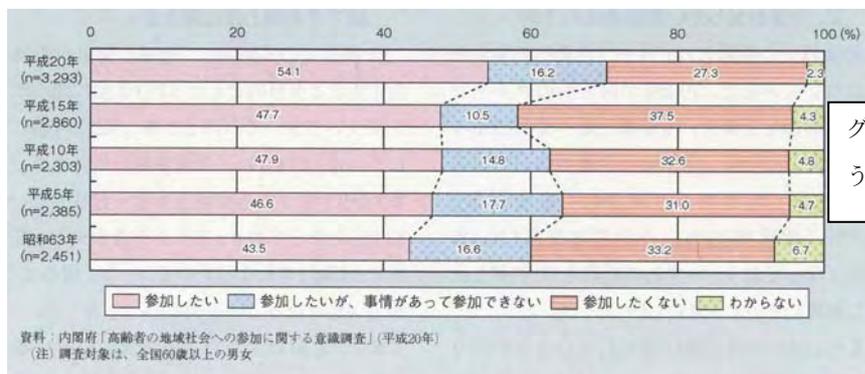
提言3 地域福祉活動推進のための民間団体や人材(ボランティアコーディネーター)の育成・登用

近年、地域活動の必要性が語られてきている。今後の地域活動の担い手として期待される高齢者（地域に比較的長く居住し、地域活動に抵抗が少ないと考えられる。また時間的・経済的余裕もあると思われる。）に関する調査を下記のとおり示す。

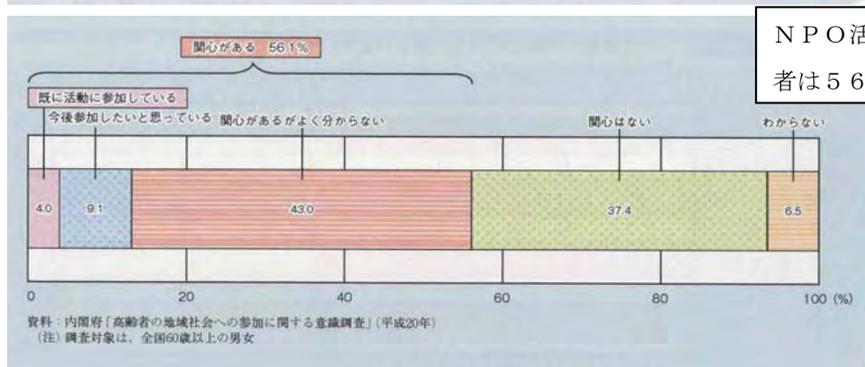


平成21年の高齢者の地域に関するライフスタイルに関する調査によると、地域のつながりの必要性を感じている高齢者は93.6%と高いが、実際に地域のつながりを感じている高齢者は77%となりその間にはギャップが存在する。

また、グループ活動への参加意向については参加したいという意欲が年々増加傾向にあり、NPO活動についても関心を持っている割合は高い。

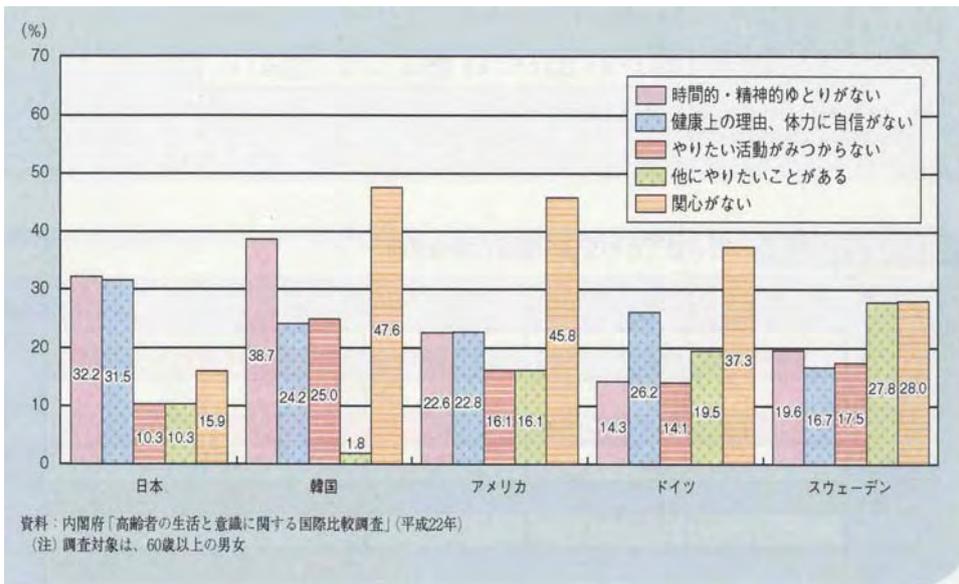


グループ活動に参加したいという高齢者は54.1%



NPO活動に関心がある高齢者は56.1%

関心・意欲が高まる一方で何故、参加者が増加しないのか。



高齢者にボランティア活動その他の社会活動に参加しない理由を聞いたところ、「時間的・精神的ゆとりがない」「健康上の理由、体力に自信がない」が上位を占めた。

参加をためらわせる理由としては、時間的・精神的ゆとり・健康上・体力上の問題があることがわかる。

そこで、地域活動促進のための仕組みとして民間団体・人材を活用した（ボランティアコーディネーター）の育成・登用を提言したい。

●人材育成の必要性

ノウハウを持った人材と熱意ある人材

ボランティアコーディネーターという新しい仕事を想定するにあたり、その仕事をするために必要な人材育成が必要である。

そのためには行政主導での人材の育成が必要である。

一線を退いた経営者や退職後の企業人、公務員等企画立案や関係機関との調整のノウハウを持った人材や現にボランティアリーダーやNPO活動の中心になっている人材の登用と同時に地域活動に熱意のある人材も登用すべきである。

起業して地域貢献がしたい学生、自らのふるさとのために何かをしたいとUターンしてきた者などを広く受け入れる。熱意のある人材とノウハウのある人材と一緒に仕事することにより、知識や経験が若い人に継承されていく。それは地域共通の財産となると同時に、若い人・高齢者双方の生きがいにもなるのではないだろうか。

●ボランティアコーディネーターとはどういった人材か？

ボランティアコーディネーターは民間団体や民間人の立場であるが、行政と共働り、地域住民の力や事業者に協力を求めながら地域の生活課題を解決することを目的とする。

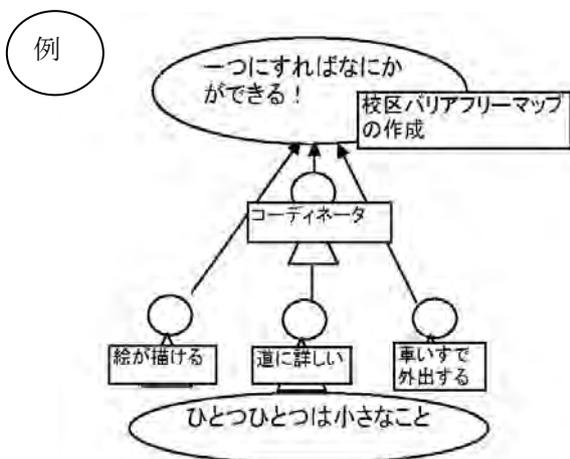
求められる資質としては、住民等の話をよく聴き、関係各方面に広くアンテナを張り、関係機関と連携協力をとれること。また、総合的企画力を持ち、個々の生活課題に対して「楽しみながら」問題解決が図れる人材である。

●ボランティアコーディネーターの役割

<STEP1>

「できることから始めよう」

ボランティアコーディネーターは地域住民が何故、活動に何故参加しないのかの「できない理由」を探すのではなく「できること」を探すことが役割。ひとりひとりの「できること」は小さくとも集まれば力になる。地域住民の「できること」を探し、集めることで大きな力にする。交流拠点（提言1参照）をベースとし、小さな「できること」を広く発掘し、集めることで新たな活動につなげる。ボランティアポイント（提言2参照）の情報等も活用し小さな「できること」を地域住民が提供しあうことを喜びとする仕組みをつくることが大事。



<STEP 2>

「継続は力なり」

どんなに役に立つ地域活動であっても、一過性のものでは意味がない。継続できる仕組みづくりが必要である。ボランティアコーディネーターはボランティアポイント（提言2参照）の活用やボランティアを継続することのメリットの広報、何回も参加したいと思う企画づくり、個別のボランティア志願者への声掛け等、ボランティアをしたいと思う地域住民のモチベーションを維持するための仕組みづくりを行う。

例

ボランティア企画コンベンション

「楽しい」「参加してみたい」をキーワードに魅力あるボランティア企画を公募する。審査は地域コミュニティの代表者やNPO活動代表者で行う。優れた企画は地域コミュニティで実際に実施する。また、協賛の企業等から（ささやかな）商品も？
起案者が実施する場合には人や金品の提供もある。

企画を持ち寄る頭脳派な？ボランティアなど多様な企画を作成する。

<STEP 3>

「関係機関と広く手を取って」

行政とパートナーシップといえども、行政の機関も多岐多様である。事業者にあっては無数にあり、その設立理念や目的は多種多様である。地域コミュニティに関しても多種多様である。ボランティアコーディネーターはそれらと協力体制をとり、それぞれのニーズを満たすよう調整を図ることが役割である。福祉分野のみならず広く活動の範囲を広げ、住民主導のまちづくりを実現する大事なキーマンである。

<おわりに>

25年後に向けて私たちが今できること・皆さんにお願いしたいこと

私たちができること

自分の住む地域にもっと興味を持っていきたい！

人と人の絆を大切にしたい！

日頃から健康づくりに関心を持つ。共通の趣味を持つ仲間や友達と交流を深める！

まず、ご近所さんと仲良くなる！

地域活動に参加してみます！

地域情報に対してアンテナをはり、積極的に参加する！

皆さんにお願いしたいこと

まずは、自分のできる範囲から地域活動のお手伝いをしてみませんか？

とにかく外に出ましょう！

自分のできることを見つけましょう！！

自分のできることを探してみませんか？

身構えず、気軽にボランティアに参加してみましょう！良い出会いもあるかも？！

自分の力を信じてまず行動を！

Presented by いきいき生活支援チーム

保護課	中村 綾
固定資産税課	青木 優
生活環境課	居石 敢三雄
子育て支援課	上木戸 知会子
市民税課	浅野 順子
地域保健福祉課	中野 美穂
総務企画課	濱口 純子

※いきいき生活支援チーム

早良区に住むすべての住民が生き甲斐を持ち、「いきいき」とした毎日を過ごすことができること、また、そのためにお互いに地域に住む住民同士で支援しあうことを願ってつけたチーム名です。

早良区職員提言検討チーム班参加者

テーマ

早良ブランドプロジェクト ～もっと早良が好きになる！～

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	区政推進部	総務企画課	上枝 美海	331	
2		地域支援課	横山 有二	455	
3		地域振興課	青柳 俊一	435	
4	市民部	市民課	古賀 翔太	232	
5		保険年金課	諫山 加奈	273	
6	地域整備部	維持管理課	高橋 大悟	304	
7	事務局	総務企画課	中川 真智子	216	

テーマ

SAWARA BOWL ～日常的に人が行き交うまち早良～

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	市民部	納税課	尾辻 美穂	345	
2		市民税課	宮本 恵美	256	
3	地域整備部	地域整備課	大森 学	311	
4	福祉事務所	福祉・介護保険課	金子 雄一郎	383	
5	保健所	健康課	津田 葉子	643	
6	事務局	総務企画課	的野 直勝	215	

テーマ

誰でも楽しく簡単に参加できる福祉を ～世代・地域を越えた新たな交流と生きがいを求

No.	部	課名	氏名	内線	備考
1	市民部	市民税課	浅野 順子	251	
2		固定資産税課	青木 優	264	サブリーダー
3	地域整備部	生活環境課	居石 敢三雄	305	
4	福祉事務所	子育て支援課	上木戸 知会子	283	
5		保護課	中村 綾	294	リーダー
6	保健所	地域保健福祉課	中野 美穂	413	
7	事務局	総務企画課	濱口 純子	213	